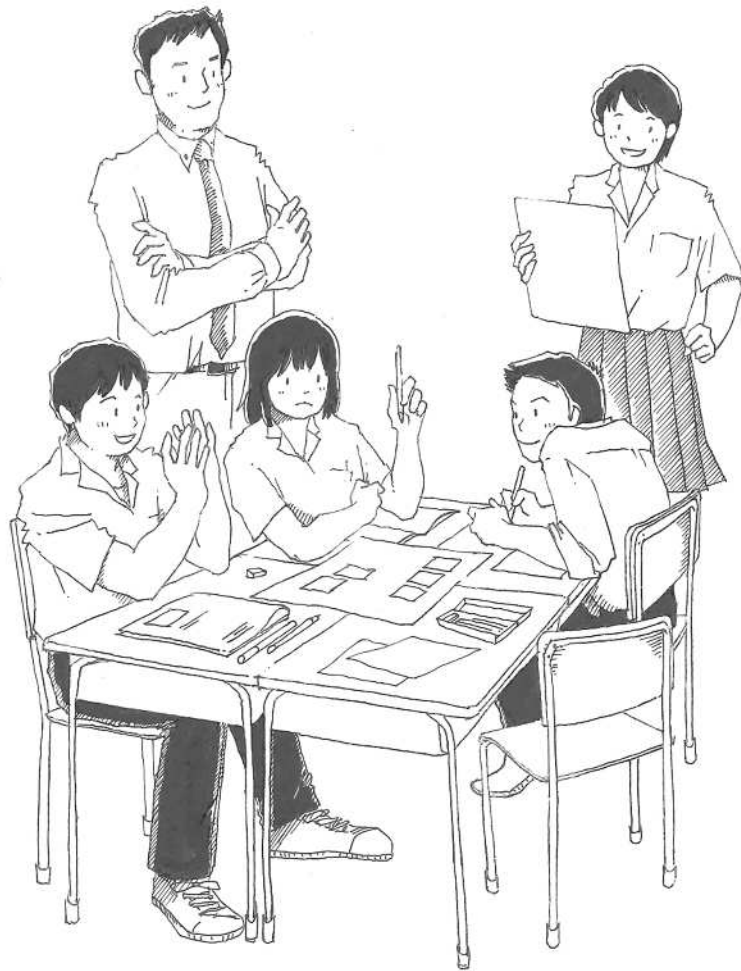


令和6年度 島根県初任者研修

教育センター研修における  
「授業づくり」の研修  
ハンドブック



島根県教育センター  
島根県教育センター浜田教育センター

## 目次

はじめに	1
授業力向上のイメージ図	2
経験年数に応じた研修（教育センター研修）において大切にしたい「授業力」の視点	3
初任者研修における「授業づくり」の研修のねらい	4
初任者研修教育センター研修「授業づくり」の研修の流れ	5
「授業づくり1」の協議の進め方について	9
これまでの実践を振り返るシート①	10
「授業づくり2」の研究協議の進め方	11
「授業づくり3」の研修で扱う模擬授業について	12
模擬授業学習指導案（略案）様式	13
模擬授業・協議の進め方について	14
模擬授業振り返りシート	16
「授業づくり4」の研修について	17
授業づくりシート	19
これまでの実践を振り返るシート②	20
フォローアップ研修（2年目）『「課題研究」レポート』作成のためのリーフレット	21
フォローアップ研修（2年目）課題研究構想シート	23
学習指導案の役割と書き方・考え方（基本型）	24
基本型のサンプル指導案（小学校・算数）から見た書き方のポイント	30
基本型のサンプル指導案（中学校・理科）から見た書き方のポイント	33
基本型のサンプル指導案（高等学校・家庭基礎）から見た主な書き方のポイント	36
基本型のサンプル指導案（生活単元学習）から見た主な書き方のポイント	40
基本型のサンプル指導案（自立活動）から見た主な書き方のポイント	47
学習指導案の見方・記入のポイントチェックリスト	54
生活単元学習指導案の見方・記入のポイントチェックリスト	55
自立活動学習指導案の見方・記入のポイントチェックリスト	56
おわりに	57

## はじめに

### 子どもたちのよりよい成長のために、私たちが成長する!

「どうして教員になったのですか。」と聞かれたら皆さんはどのように答えますか。

子どもたちに生き生きと人生を歩んでほしい。誰もが願っていることです。

そのような子どもたちの将来を実現するために、私たちは日々教育を行っています。

よい教師の条件として「子どもが好き、教えることが好き、学ぶことが好き」と話す人がいます。子どもたちのためにしっかり教えるんだという思いがあること、そのために学び続けていこうという向上心があることです。

また、子どもたちにとっての教師の存在意義は、自分をよりよい成長に導いてくれることにあります。愛情をもって教えてくれる先生や自分たちのことをしっかり考えてくれる先生との出会いを期待しています。

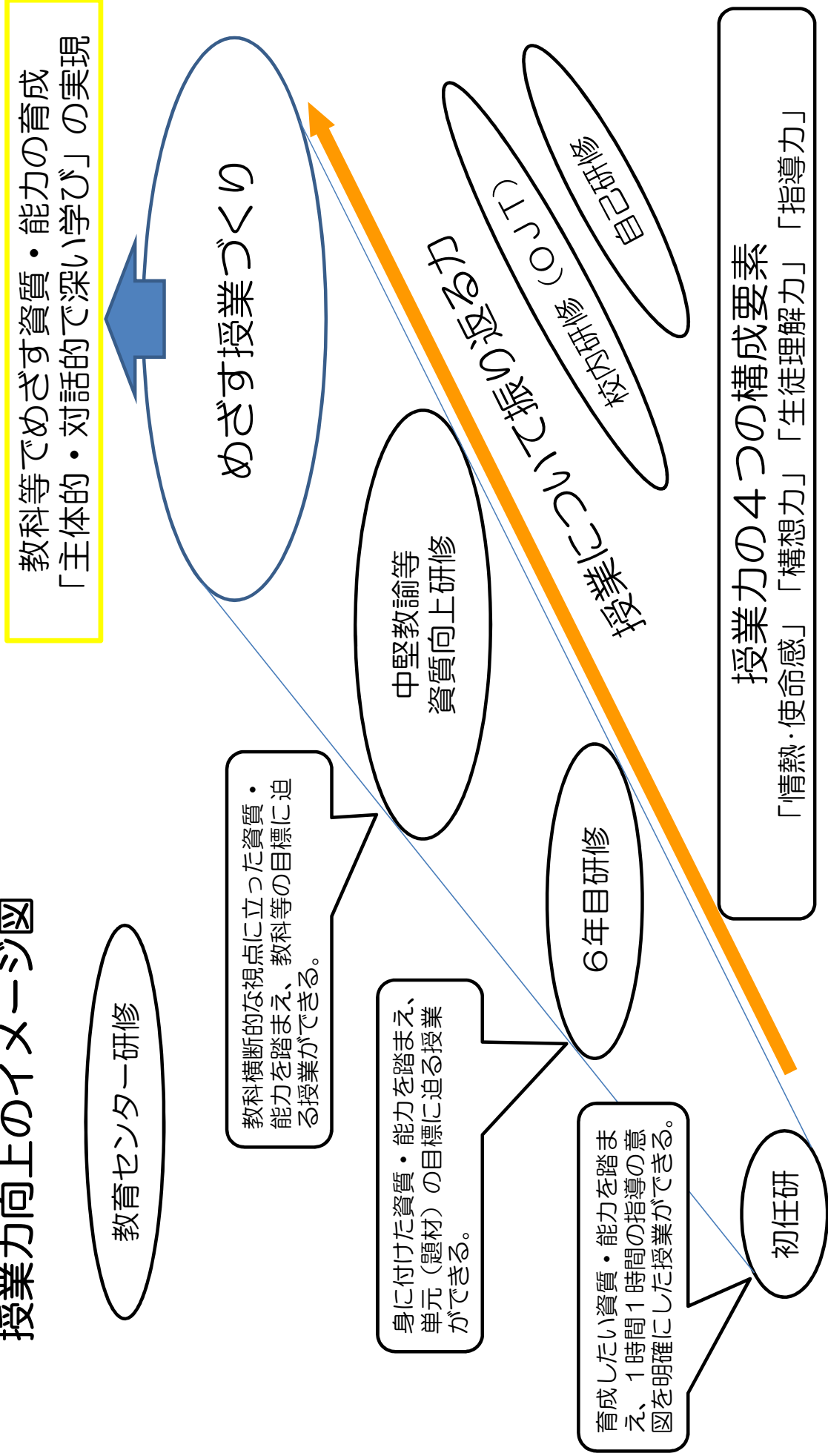
私たちは、その期待に応えられるように努力していかなければなりません。

言葉で言うのは簡単ですが、実際に指導を行ったり、自己研鑽したりすることは簡単ではなく、日々の忙しさの中では難しさを感じる人が多いのが現実です。

ただ、忙しい日々の中ですが、走り続けていると見えないものもたくさんあります。少し立ち止まり研修できるこの機会をプラスにとらえて、子どもたちの成長につながる授業力を一緒に身に付けていきましょう。



# 授業力向上のイメージ図



# 経験年数に応じた研修（教育センター研修）において大切にしたい「授業力」の視点

## ◆教育センター研修における「授業力」の四つの構成要素の解釈

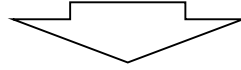
「情熱・使命感」 児童生徒等のよりよい成長を願って、周囲と協働しながら自らの資質向上を図っていく姿勢
「構想力」 指導のねらいを明確にするとともに教材を研究し、見直しをもって授業を計画・創造、改善していく力
「生徒理解力」 集団の中で個の可能性を引き出すために、児童生徒等一人一人の実態・特性を理解する力
「指導力」 学び合う集団づくりに努め、専門的な指導技術をもとに授業の目標の達成に向けて授業を実践する力

## ◆経験年数に応じた研修において大切にしたい授業力の視点（●は重点）

	初任者研修	6年目研修	中堅教諭等資質向上研修
授業でめざす子どもの姿	教科等の見方・考え方を働かせ、資質・能力を伸ばす ～ 主体的・対話的で深い学びを通して ～		
「授業づくりのねらい」	育成したい資質・能力を踏まえ、1時間1時間の指導の意図を明確にした授業ができる。	身に付けた資質・能力を踏まえ、単元(題材)の目標に迫る授業ができる。	教科等横断的な視点に立った資質・能力*を踏まえ、教科等の目標に迫る授業ができる。  ※「言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力」及び「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」等のこと
指導と評価の一体化 ～授業改善につなげる～			
指導のねらい 構想力及び生徒理解力	● 学習指導要領が求める資質・能力を踏まえ、授業における指導の意図を明確にする。	● 学習指導要領に示された児童生徒等が学習前に身に付けてきている資質・能力を踏まえ、児童生徒等の実態を把握する。 ● 児童生徒等が学習前に身に付けてきた育成する資質・能力を踏まえ、単元(題材)において育成する資質・能力を明確にする。	● 学校教育目標と教科等の指導内容の系統性、他教科等との関連性を踏まえ、育成する資質・能力を明確にする。
	● 児童生徒の主体的・対話的で深い学びが実現される学習活動を設定する。	● 児童生徒等が学習前に身に付けてきた資質・能力を踏まえ、目指す資質・能力を育むための単元(題材)計画等を構成する。	● 他教科等との関連性や資質・能力の系統性を踏まえ、教科等が目指す資質・能力を育成する授業を行う。
	・ 児童生徒が教科等の見方・考え方を働かせる授業を計画する。	・ 児童生徒等が教科等の見方・考え方を働かせる授業を行う。	
学習評価	・ 指導と評価の一体化の意義を理解するとともに、評価の計画を立てて授業を行い、目標に準拠した評価をする。	● 単元(題材)の目標と評価規準を見通しながら、単元における評価の場面や方法を工夫し、資質・能力を育成するための学習指導に活かす。	● 単元(題材)の目標と評価規準を見通しながら、単元における評価の場面や方法を工夫し、教科横断的な視点に立った資質・能力を育成するための学習指導に活かす。
指導力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学び合う集団づくりに努める。(学習規律、安心して学習できる場)</li> <li>・ 児童生徒等の発達段階等を踏まえた支援を行う。(個々のニーズに応じた指導や支援、ユニバーサルデザインの視点)</li> <li>・ 指導技術を高める。(発問、言葉かけ、板書、教材・教具、ICT活用、学習形態等)</li> </ul>		
使命感・情熱	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様な価値観を尊重する。</li> <li>・ 新しい教育情報等を進んで得ようとする。</li> <li>・ 他者から学ぶ。(同僚、管理職、保護者・地域、児童生徒等から)</li> </ul>		

## ☆初任者研修における「授業づくり」の研修のねらい

育成したい資質・能力を踏まえ、1時間1時間の指導の意図を明確にした授業ができる。

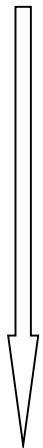


## ☆「なぜそのような授業をめざすのか」

- 基本的な指導力として、学習指導要領が求める資質・能力を踏まえ、単元(題材)の指導と評価の計画に基づいた本時の目標(どのような資質・能力を付けたいか)と指導の意図(どのような姿をめざして学習活動を行うのか)を明確にし、学習過程を組み立てることが求められているから。
- 教科書の内容を教え込むことに終始する授業ではなく、「主体的・対話的で深い学び」の視点を意識した学習活動の中で、資質・能力を育むことができる授業を構想することが求められて

## ☆「初任者研修でめざす授業のイメージ」

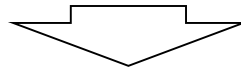
**本時計画** (本時の目標に迫るために、指導の意図を明確にした授業ができる。)



<手立て> ~主体的・対話的で深い学びを通して~

- ・指導の意図の明確化と「めあて」の提示方法の工夫
- ・児童生徒が「問い」を見いだす学習活動の工夫
- ・目標に迫るための児童生徒を主体とした本時の計画や教師の支援
- ・各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせることができる学習過程の工夫
- ・評価方法の工夫 等

**評価** (目標に準拠した評価をしている。)



## 初任者研修をとおしてめざす姿

1年後には、

「資質・能力を育成するためには、○○が大切だ。」

「『主体的・対話的で深い学び』の実現のために、○○を工夫しよう。」

などのように、自分の言葉で語るができる。

## 初任者研修教育センター研修(小学校)「授業づくり」の研修の流れ

### 第Ⅰ回教育センター研修

#### ○講義

- ・研修の流れについて。
- ・「授業づくり」におけるねらいについて。
- ・「指導の意図が明確な授業」「主体的・対話的な学び」とは。

#### ○協議

- ・4～5月の授業実践について「これまでの実践を振り返るシート①」に記入する。
- ・今後の課題について。



「授業づくり」におけるねらいを踏まえ、日々の授業や校内における見学研・実践研・振返研・教材研で研修する。

### 第Ⅱ回教育センター研修

#### ○教科等指導

選択教科等①(体育・音楽・図画工作・家庭・自立活動より選択)

選択教科等②(社会・理科・生活・各教科等を合わせた指導より選択)

国語、算数

#### ○島根大学教育学部附属義務教育学校の授業参観・研究協議

#### ○特別支援学校での授業参観・研究協議(「特別支援教育担当」採用の者のみ)



### 第Ⅲ回教育センター研修(7・8月に所属の教育事務所ごとに実施)

#### ○模擬授業(P12～16参照)

#### ○協議

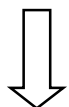
- ・児童生徒の資質・能力を育むために、大切にしたい学習活動や教師の手立てについて。
- ・今後の具体的な実践について。

#### ○道徳教育

#### ○キャリア教育

#### ○外国語教育

#### ○特別活動



「授業づくり」におけるねらいを踏まえた自分の課題を、2学期以降の授業で具体的な実践をとおして改善するとともに、密案による研究授業及び研究協議を行う。

### 第Ⅴ回教育センター研修

#### ○総合的な学習の時間

#### ○講義

- ・資質・能力の育成に向けた「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善。
- ・フォローアップ研修について。

#### ○演習

- ・資質・能力を育成するための授業について「授業づくりシート」に記入する。
- ・9～1月の授業実践について「これまでの実践を振り返るシート②」に記入する。
- ・フォローアップ研修「課題研究」の研究主題設定に向けて。

※それぞれの研修項目の目的と内容については、『令和6年度島根県新任教職員研修実施要項』のP25～26を参照すること。

## 初任者研修教育センター研修(中学校)「授業づくり」の研修の流れ

### 第Ⅰ回教育センター研修

#### ○講義

- ・研修の流れについて。
- ・「授業づくり」のねらいについて。
- ・「指導の意図が明確な授業」「主体的・対話的な学び」とは。

#### ○協議

- ・4～5月の授業実践について「これまでの実践を振り返るシート①」に記入する。
- ・今後の課題について。



「授業づくり」におけるねらいを踏まえ、日々の授業や校内における見学研・実践研・振返研・教材研で研修する。

### 第Ⅱ回教育センター研修

#### ○道徳教育

#### ○授業づくり(教科別)

- ・各教科で育成を目指す「資質・能力」について。
- ・各教科の特質に応じた「見方・考え方」について。

#### ○島根大学教育学部附属義務教育学校の授業参観・研究協議

#### ○特別支援学校での授業参観・研究協議(「特別支援教育担当」採用の者のみ)



### 第Ⅲ回教育センター研修

#### ○模擬授業(P12～16参照)

#### ○協議

- ・児童生徒の資質・能力を育むために、大切にしたい学習活動や教師の手立てについて。
- ・今後の具体的な実践について。

#### ○授業づくり(教科別)

- ・教科指導におけるICT活用について。
- ・「指導と評価の一体化」について。
- ・これまでの成果と課題を踏まえた授業改善について。

#### ○特別活動



「授業づくり」におけるねらいを踏まえた自分の課題を、2学期の授業で具体的な実践をとおして改善するとともに、学校訪問指導を受ける。(学校訪問指導を3学期に実施する学校もある。)

### 第Ⅴ回教育センター研修

#### ○総合的な学習の時間

#### ○講義

- ・資質・能力の育成に向けた「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善。
- ・フォローアップ研修について。

#### ○演習

- ・資質・能力を育成するための授業について「授業づくりシート」に記入する。
- ・9～1月の授業実践について「これまでの実践を振り返るシート②」に記入する。
- ・フォローアップ研修「課題研究」の研究主題設定に向けて。

※それぞれの研修項目の目的と内容については、『令和6年度島根県新任教職員研修実施要項』のP25～26を参照すること。

## 初任者研修教育センター研修(高等学校)「授業づくり」の研修の流れ

### 第Ⅰ回教育センター研修

#### ○講義

- ・研修の流れについて。
- ・「授業づくり」のねらいについて。
- ・「指導の意図が明確な授業」「主体的・対話的な学び」とは。

#### ○協議

- ・4～5月の授業実践について「これまでの実践を振り返るシート①」に記入する。
- ・今後の課題について。



「授業づくり」におけるねらいを踏まえ、日々の授業や校内における見学研・実践研・振返研・教材研で研修する。

### 第Ⅱ回教育センター研修

#### ○道徳教育

#### ○特別活動

#### ○授業づくり(教科別)

- ・各教科で育成を目指す「資質・能力」について。
- ・各教科の特質に応じた「見方・考え方」について。

#### ○島根大学教育学部附属義務教育学校の授業参観・研究協議



### 第Ⅲ回教育センター研修

#### ○模擬授業(P12～16参照)

#### ○協議

- ・児童生徒の資質・能力を育むために、大切にしたい学習活動や教師の手立てについて。
- ・今後の具体的な実践について。

#### ○授業づくり(教科別)

- ・教科指導におけるICT活用について。
- ・「指導と評価の一体化」について。
- ・これまでの成果と課題を踏まえた授業改善について。

#### ○授業づくりの視点

- ・学習指導案作成の基本的理解。



「授業づくり」におけるねらいを踏まえた自分の課題を、2学期の授業で具体的な実践をとおして改善するとともに、学校訪問指導を受ける。(学校訪問指導を3学期に実施する学校もある。)

### 第Ⅴ回教育センター研修

#### ○総合的な探究の時間

#### ○講義

- ・資質・能力の育成に向けた「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善。
- ・フォローアップ研修について。

#### ○演習

- ・資質・能力を育成するための授業について「授業づくりシート」に記入する。
- ・9～1月の授業実践について「これまでの実践を振り返るシート②」に記入する。
- ・フォローアップ研修「課題研究」の研究主題設定に向けて。

※それぞれの研修項目の目的と内容については、『令和6年度島根県新任教職員研修実施要項』のP25～26を参照すること。

## 初任者研修教育センター研修(特別支援学校)「授業づくり」の研修の流れ

### 第Ⅰ回教育センター研修

○講義

- ・研修の流れについて。
- ・「授業づくり」のねらいについて。
- ・「指導の意図が明確な授業」「主体的・対話的な学び」とは。

○協議

- ・4～5月の授業実践について「これまでの実践を振り返るシート①」に記入する。
- ・今後の課題について。



「授業づくり」におけるねらいを踏まえ、日々の授業や校内における見学研・実践研・振返研・教材研で研修する。

### 第Ⅱ回教育センター研修

○道徳教育

○特別活動

○子どもの見方・とらえ方

○教科指導(知的障がい特別支援学校における教科指導)

○特別支援学校での授業参観・研究協議



### 第Ⅲ回教育センター研修

○模擬授業(P12～16参照)

○協議

- ・児童生徒の資質・能力を育むために、大切にしたい学習活動や教師の手立てについて。
- ・今後の具体的な実践について。

○障がいのある児童生徒の理解と授業づくり



「授業づくり」におけるねらいを踏まえた自分の課題を、2学期の授業で具体的な実践をとおして改善するとともに、学校訪問指導を受ける。(学校訪問指導を3学期に実施する学校もある。)

### 第Ⅴ回教育センター研修

○総合的な学習(探求)の時間

○講義

- ・資質・能力の育成に向けた「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善。
- ・フォローアップ研修について。

○演習

- ・資質・能力を育成するための授業について「授業づくりシート」に記入する。
- ・9～1月の授業実践について「これまでの実践を振り返るシート②」に記入する。
- ・フォローアップ研修「課題研究」の研究主題設定に向けて。

※それぞれの研修項目の目的と内容については、『令和6年度島根県新任教職員研修実施要項』のP25～26を参照すること。

## 「授業づくり1」の協議の進め方について

- ◆協議のテーマ 「指導の意図が明確な授業」  
「主体的・対話的な学びの実現」

- ◆4~5月の授業実践について、授業づくりの2つの視点に絞って、「これまでの実践を振り返るシート①」に記入します。その後、グループに分かれて協議を行います。

### <「これまでの実践を振り返るシート」の記入について>

- ① 「指導の意図が明確な授業」とはどのような授業なのか、「主体的・対話的な学び」とはどのような学びなのか考え、それを実現するための具体的な手立てについて整理します。
- ② 「育成したい資質・能力を踏まえ、1時間1時間の指導の意図を明確にした授業ができたか」という視点で4月~5月の授業実践を振り返り、「気になる点」や「良い点」を書き出します。「気になる点」についてはその原因及び改善に取り組みたいことについて考えます。

### <グループ協議について>

- ① 司会者、全体協議の発表者を決めます。
- ② 一人ずつ、自分の「これまでの実践を振り返るシート①」に記入した内容について話します。「気になる点」の原因や、めざしたい授業になるための具体的な手立てについて、意見交換できるとよいでしょう。
- ③ めざしたい授業になるための具体的な手立てを「これまでの実践を振り返るシート①」に記入して整理します。

これまでの実践を振り返るシート①

(名前)

育成したい資質・能力を踏まえ、  
1時間1時間の指導の意図を明確にした授業ができる。

指導の意図が明確な授業

主体的・対話的な学びの実現

深い学びの実現

その他

良い点

気になる点

気になる点の原因は何だと思えますか。特に改善に取り組みたい点は何ですか。

自分はこんな授業をめざしたい

そのための具体的な手立て

## 「授業づくり2」の研究協議の進め方について

### ◆「授業づくり2」の目的

授業参観を通して、授業づくりのねらいを実現するための具体的な手立て等を見だし、授業の実践への意欲を高める。

- ◆研究協議の視点 「指導の意図が明確な授業」  
「主体的・対話的な学びの実現」

### <「授業振り返りシート」の記入について>

- ① 「本時の目標に迫るための授業における指導の意図」は何か、という視点で授業を参観します。  
本時の目標に迫るための工夫、教師の働きかけと児童生徒の姿（表情、つぶやき、行動など）などについて記録します。
- ② 「授業振り返りシート」に、「参考になった点」、「疑問に思った点」及び「疑問に思った点」に対する自分の意見」を記入します。

### <「付箋」の記入について>

- ① 授業参観の終了後に、次のことについて付箋に記入します。  
ア ブルー … 「参考になった点」  
イ ピンク … 「疑問に思った点」
- ② ブルーとピンクの付箋1枚につき1つの点について記入してください。

### <グループ協議について>

- ① 司会1名、見出し記入係1名、発表係1名を決めます。
- ② グループ用の「授業づくり振り返りシート」に説明を加えながら付箋を貼ります。
- ③ 付箋を分類し、見出しを付けます（カテゴリー化）。
- ④ 分類したものを関連付け、その関係等を記入します。
- ⑤ 「疑問」については、自分だったらどうするかという視点でグループで協議し、出た考えをシートに書き込みます。
- ⑥ 発表の準備をします。

### <全体協議について>

- ① 順番にグループ協議でまとめた内容を発表します。
- ② 発表で出た意見や疑問についての授業者の考えを聞くとともに、児童生徒の資質・能力を育むための具体的な手立てについて協議する。

### <振り返りについて>

- ① 今後の授業づくりに生かせることを個人のワークシートに整理します。
- ② これから自分は、どのような手立てを大切に授業を行っていきたいか、所信を表明します。

## 「授業づくり3」の研修で扱う模擬授業について

### 1 実施研修 第Ⅲ回教育センター研修

2 目的 育成したい資質・能力を踏まえ、1時間1時間の指導の意図を明確にした授業の在り方を理解し、指導力を身に付ける。

3 内容 (ア) 育成したい資質・能力を踏まえ、指導の意図を明確にした授業の基本  
(ウ) 模擬授業による授業研究

4 視点 「指導の意図が明確な授業」  
「主体的・対話的な学びの実現」

※「令和6年度版 授業チェックリスト」(令和6年4月 島根県教育委員会)等を参照

5 時間 1人35分

(準備・説明3分、模擬授業15分、協議等17分 ※3~5人のグループで行う。)

※時間は目安です。

### 6 留意事項

- (1) 本研修以降に行う授業を取り上げること。また、第Ⅰ回教育センター研修で、自分が特に改善に取り組みたい問題点として挙げた内容を踏まえること(「これまでの実践を振り返るシート①」を参照)。
- (2) 学習指導案を作成する際に、4で示した視点を踏まえて授業展開全体を考えること。
- (3) 4で示した視点について、教師の手立てが見える場面で模擬授業を行うこと。
- (4) 授業の流れを説明して終わるようなダイジェスト版ではなく、(3)の場면을切り取ったものとする。

### 7 その他

- (1) 学習指導案の準備等の詳細については、第Ⅲ回教育センター研修の実施要項で通知する。  
P14を参照のこと。
- (2) 「経験年数に応じた研修(教育センター研修)において大切にしたい『授業力』の視点」  
P3を読み、準備の参考にすること。

(模擬授業学習指導案例)

◆この様式を参考にし、A4判1枚程度にまとめてください。(両面印刷可)

第○学年○○科学習指導案 学 校 名 指導者氏名		
1 単元 (題材) 名		
2 単元 (題材) 目標		
3 本時の学習		
(1) 目標		
(2) 展開		
学習活動と予想される子どもの反応	教師の支援 (・) と評価	
(3) 評価		
十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て

※各項目の内容等はP24～53を参考にしてください。

※評価については『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(小学校、中学校)』(令和2年3月 国立教育政策研究所)、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(高等学校)』(令和3年8月 国立教育政策研究所)を参考にしてください。なお、道徳科については、(3) 評価の項目は必要ありません。

国立教育政策研究所のHPからダウンロードすることができます。

(P58にURLとQRコードを掲載)

市販もされています。

**必読の資料です!**



## 模擬授業・協議の進め方について

- ◆模擬授業・協議のテーマ 「指導の意図が明確な授業」  
「主体的・対話的な学びの実現」
- ◆グループに分かれて模擬授業と協議を行います。基本的に受講者が主体的に進めていく研修とします。

### 1 模擬授業について

#### (1) 模擬授業の時間(目安)

- ① 1人35分
- ② 時間配分(準備・説明3分、模擬授業15分、付箋5分、協議12分)

#### (2) 進め方について

- ① 名簿順に授業を行ってください。
- ② 司会や計時も順番に行ってください。(授業が終わった人・最初は名簿の最後の人)

#### (3) 付箋について

- ① 模擬授業終了後、次のことについて付箋に書いてください。  
「指導の意図が明確な授業」「主体的・対話的な学びの実現」について  
ア ブルー … 効果的であったと思われる教師の手立て等  
イ ピンク … 授業者への提案
- ② ピンクとブルーについてそれぞれ1枚以上書いてください。
- ③ 授業者自身も時間があれば付箋に書いてください。

#### (4) 協議について

- ① 司会の人から「模擬授業振り返りシート(P16を参照)」にコメントしながら付箋を貼っていきます。
- ② ①に付け加えながらメンバーの付箋を貼ってください。
- ③ 最後に授業者が特に意識した視点について協議します。
- ④ 「良い点」「気になる点」のまとめについては、模擬授業が終わってから個人での振り返り作業で行います。

### 2 授業の振り返りとグループ協議について

#### (1) 個人での振り返りについて

- ① 全員の模擬授業が終わってから、自分の付箋を整理します。自分の授業について「良い点」「気になる点」について記入します。
- ② 「気になる点」の原因等について考え、整理します。
- ③ ①、②を踏まえて、児童生徒の資質・能力を育むために、自分がめざしたい授業について記入します。
- ④ 具体的な改善策を考えるとときに、『学習指導の基本を身に付けよう 授業づくりQ&A』やP54~56「学習指導案の見方・記入のポイントチェックリスト」等を参考にしてください。

(2) グループ協議について

- ① 司会者、全体協議の発表者を決めます。
- ② 一人ずつ、自分の「振り返りシート」に記入した内容について話します。「気になる点」の原因や、めざしたい授業になるための具体的な手立てについて、意見交換できるとよいでしょう。
- ③ 児童生徒の資質・能力を育むために大切だと考えたことをカテゴリー化し、グループで2～3つのキーワードとしてまとめてください。用紙1枚に、1つのキーワードを書きます。
- ④ 各グループで話し合ったことを、全体協議で伝えられるようにしてください。時間は1グループ5分以内です。

3 全体協議について

(1) 各班の発表

キーワードを基に、「指導の意図が明確な授業」「主体的・対話的な学びの実現」とはどんな授業か、そのために大切なことは何かをグループの意見として発表する。

(2) 指導主事によるまとめ

「振り返りシート」※A3判で1人に1枚配付します。

模擬授業振り返りシート			育成したい資質・能力を踏まえ、1時間1時間の指導の意図を明確にした授業ができる。	(名前 _____)
指導の意図が明確な授業	主体的・対話的な学びの実現	深い学びの実現		
		その他		
良い点	気になる点	自分はこんな授業をめざしたい		
気になる点の原因は何だと思えますか。特に改善に取り組みたい点は何ですか。		そのための具体的な手立て		

育成したい資質・能力を踏まえ、  
1時間1時間の指導の意図を明確にした授業ができる。

指導の意図が明確な授業

主体的・対話的な学びの実現

深い学びの実現

その他

良い点

気になる点

自分はこんな授業を目標ざしたい

そのための具体的な手立て

気になる点の原因は何だと思えますか。特に改善に取り組みたい点は何ですか。

「授業づくり4」の研修について

◆講義・協議のテーマ 「児童生徒の資質・能力を育む授業づくり」

I 「授業づくりシート」の活用

<「授業づくりシート」の記入について>

- ① これまでに実施した単元(題材)、またはこれから実施する次の単元(題材)の授業において、児童生徒にどのような資質・能力を育もうとしているのかを確認します。
- ② 実施した単元(題材)の授業において児童生徒の資質・能力が育成できたかどうかを、どのように評価するのか(どのように評価しているのか)を整理します。
- ③ ①及び②のために、単元・題材の導入においてどのような授業づくりを行ったのか(行うのか)を書き出します。その際、「児童生徒の問い」、「教師の手立て」、「教師の支援」、などの視点からその具体について整理します。

<グループ協議について>

- ① 司会者を決めます。
- ② 一人ずつ、自分の「授業づくりシート」に記入した内容について話します。「児童生徒の問い」、「教師のはたらきかけ」、「教師の支援」などの関連について、意見交換できるとよいでしょう。
- ③ 意見交換した内容をもとに、再度検討し、資質・能力を育む授業づくりについて整理しましょう。

「授業づくりシート」

<b>授業づくりシート (授業づくり4)</b>		名前 <input style="width: 100px;" type="text"/>
本時の目標 (ねらい)	本時終了時のまとめを、児童生徒の言葉で書きましょう。	
		➡
本時で工夫や配慮をしたこと、及び成果や課題について書きましょう。		
①「めあて」や「問い」に導くために、児童生徒が興味・関心をもつことができる導入	③児童生徒が課題に対して、自分の考えを持てるための手立て(見通しの持たせ方等)	
②児童生徒が、「なぜ?」「どうして?」「知りたい」「調べたい」と思える「めあて」や「問い」	④児童生徒が、「めあて」や「問い」を意識して話し合い活動に取り組み、多面的・多角的に自分の考えを表現できるための手立て(学習形態、問い返し、ICT活用等)	

2 「これまでの実践を振り返るシート②」の活用

<「これまでの実践を振り返るシート②」の記入について>

- ① これまでに実施した授業の学習活動や教師の手立てが、児童生徒の資質・能力を育むことにどのようにつながっていたのか、どのような手立てを行えば児童生徒の資質・能力を育むことができたのかを整理します。
- ② 「育成したい資質・能力を踏まえ、1時間1時間の指導の意図を明確にした授業ができたか」という視点で9月～1月の授業実践を振り返り、「良い点」や「気になる点」を書き出します。「気になる点」についてはその原因及び改善に取り組みたいことについて考えます。

<グループ協議について>

- ① 司会者を決めます。
- ② 一人ずつ、自分の「これまでの実践を振り返るシート②」に記入した内容について話します。「気になる点」の原因や、めざしたい授業になるための具体的な手立てについて、意見交換できるとよいでしょう。
- ③ 児童生徒の資質・能力を育むためにめざす授業、そのための具体的な手立てを「これまでの実践を振り返るシート②」に記入して整理します。

「これまでの実践を振り返るシート②」

これまでの実践を振り返るシート②		育成したい資質・能力を踏まえ、1時間1時間の指導の意図を明確にした授業ができる。	(名前 )
指導の意図が明確な授業	主体的・対話的な学びの実現	深い学びの実現	
		その他	
良い点	気になる点	自分はこんな授業をめざしたい	
		そのための具体的な手立て	
気になる点の原因は何だと思えますか。特に改善に取り組みたい点は何ですか。			

# 授業づくりシート（授業づくり4）

名前

本時の目標（ねらい）

本時終了時のまとめを、児童生徒の言葉で書きましょう。

本時で工夫や配慮をしたこと、及び成果や課題について書きましょう。

①「めあて」や「問い」に導くために、児童生徒が興味・関心をもつことができる導入

③児童生徒が課題に対して、自分の考えを持てるための手立て（見通しの持たせ方等）

②児童生徒が、「なぜ？」「どうして？」「知りたい」「調べたい」と思える「めあて」や「問い」

④児童生徒が、「めあて」や「問い」を意識して話し合い活動に取り組み、多面的・多角的に自分の考えを表現できるための手立て（学習形態、問い返し、ICT活用等）

これまでの実践を振り返るシート②

(名前)

育成したい資質・能力を踏まえ、  
1時間1時間の指導の意図を明確にした授業ができる。

指導の意図が明確な授業

主体的・対話的な学びの実現

深い学びの実現

その他

良い点

気になる点

気になる点の原因は何だと思えますか。特に改善に取り組みたい点は何ですか。

自分はこんな授業をめざしたい

そのための具体的な手立て

## フォローアップ研修（2年目）『「課題研究」レポート』作成のためのリーフレット

課題研究については、次に示す「1 研究構想」、「2 研究のまとめ方」を参考にしてまとめてみましょう。

### 1 研究構想

どんな研究を、どのように進めていくかの構想作りには、下のようなワークシートを利用すると構想を立てやすい。

#### 研究構想シートの記入例

フォローアップ研修（2年目） 課題研究構想シート	
所属の校種・職種	研修番号／氏名
<p><b>1 児童生徒の実態や自身の授業力の実態（強み弱みを含めて）→「研究動機」との関わり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界史の授業で教師が歴史の用語や流れの説明に終始してしまっている。</li> <li>生徒が調べたり、考えたり、話し合ったりする場面が少ない。</li> <li>本時の目標を達成できる問いが設定できていない。</li> <li>グループでの話し合いにはどの生徒も積極的に参加することができる。</li> <li>生徒へのアンケートで、歴史に対する興味・関心が高いと回答した者が多かった。</li> <li>テスト結果から個別の知識は持っているが、それらを組み合わせて論理的に思考・判断・表現することを問う問題の正答率が低い結果になった。</li> </ul>	<p>4 時間があれば、例文を参考にして「研究の目的」の下書きを書いてみましょう。</p> <p><b>【研究の目的】</b></p> <p>〇〇を通して、〇〇できる資質・能力を育むとともに、〇〇等の取組の効果を明らかにする。</p> <p>・生徒が問いに対して自ら調べたり他者と学び合ったりして得られた知識を活用して論理的に思考・判断・表現する学習を通して、思考力・判断力・表現力を高める。</p>
<p><b>2 どのような児童生徒の姿をめざすのか、どのような資質・能力を伸ばしていくのか</b> →「研究の目的」「研究仮説」との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元を通して、生徒が獲得した知識を活用して論理的に思考・判断・表現する資質・能力を育てたい。</li> <li>生徒が意欲的に歴史学習に取り組み、他者の考えに触れて視野を広げたり、新たな考えを導き出したりする姿をめざしたい。</li> </ul>	
<p><b>3 そのためにどのような手立てを行うのか→「研究の目的」「研究仮説」「研究の方法」との関わり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元の最後に生徒が獲得する概念的知識と各時間の最後にまとめとして記述する内容を明確にして授業に臨むことで、目標に対してぶれない授業をしていく。</li> <li>各単元の中で、生徒が自ら調べたり、他者との学び合ったりして得た知識を活用して思考・判断・表現する学習場面を必ず設定する。その際に、生徒が自ら社会的な見方・考え方を生かして追求できるように問いを工夫する。</li> <li>本時の中心発問を考える際に、目標に迫ることができる内容、意欲的に解決に向けて取り組める内容、個の考えを生かせる内容の3つの視点で発問の言葉を工夫する</li> </ul>	

### 2 研究のまとめ方

#### 研究主題

研究のタイトル。1～7が総括して表されるもの。研究主題をより具体化するためにサブタイトルをつけることもできる。

（「論理的思考力を育む授業方法の開発」～問いと学び合いを取り入れた世界史学習を通して～）

<b>1 研究の目的</b>	この研究で何を明らかにしようとしているか、何をめざしているか。 （生徒が問いに対して自ら調べたり他者と学び合ったりして得られた知識を活用して論理的に思考・判断・表現する学習を通して、思考力・判断力・表現力を高める。）
<b>2 研究の動機</b>	なぜこの研究主題を設定したか。 自分の授業づくりの課題、学校の実態や課題や社会的・学問的背景など研究の基盤となるもの。 （世界史の授業で教師が歴史の用語や流れの説明に終始して…）

「近年〇〇が叫ばれている」などの書き出しを避け、自発的な自らの課題として記述するようにする

3 研究仮説	この研究の結果についてどのような予測が考えられるか。 研究の指針、ビジョン。研究の目的と合わせて記述してもよい。 (世界史の学習において、本時の目標を達成できる問いを工夫するとともに、生徒が問いに対して自ら調べたり他者と学び合ったりして得た知識を活用して論理的に思考・判断・表現する学習を設定することによって、思考力・判断力・表現力が高まるであろう。)
4 研究の方法	研究の目的を達成、あるいは研究仮説を確認するために、いつ、どこで、誰(何)に対して、何を使って、どのような方策を行うか。また成果をどうやって確かめるか。 (対象:〇〇高等学校3年、授業実施期間:6月1日~11月31日、科目名:世界史B、手順:アンケート実施(事前・事後)、問いの作成、授業実践、定期考査のデータ収集)
5 結果	研究仮説についてどのような結果が得られたか。 (論理的思考力の変化が見られるか。)
6 考察	結果をもたらした理由は何かを分析する。
7 成果と課題	研究の目的は達成できたか。 研究を通してどのようなことがわかったか、また明らかになったか。
8 参考文献等	引用文献、参考文献の一覧、添付資料など。 (著者名、書名、出版年、出版社など)

先行研究などを参考にしながら、自分の考えを客観的なものとして述べるようにする。引用の場合は「〇〇で述べられているように」などと明記する

成果と課題を明確にする

### 課題研究レポート作成上の留意点

- ・1文はあまり長くならないようにする。
- ・文体は「である」調で書く。
- ・表記や用語を統一する。
- ・事実と意見を区別する。
- ・説明には図表を有効に活用する。
- ・主語・述語などの文の関係、語句の係り受けに乱れないようにする。
- ・必要な場所では接続詞を積極的に使い、論理を明示的にする。
- ・章や節の中で、結論やまとめを先に書き、そのあとにその結論やまとめを論証する記述を行うようにする。

### 【参考】一般的な教育実践研究の進め方

観察	①実態把握	子ども・学校等の実態を観察し、課題を発見する。
	②研究の目的の設定	その課題について、子ども・学校等のどういう姿をめざしたいのか、まとめる。
仮説	③研究仮説の設定	①を②にするために、何をどのようにすればよいと考えるかを明確にする。
	④実践方法の設定	③を、具体的には、どのように実践や追究するのかを検討する。
	⑤検証方法の設定	③が立証されたかどうかを判断する方法を考える。
検証	⑥実践・追究	③に基づいた教育活動を④に従って行う。
	⑦結果の検証	⑥の結果をまとめ、③が立証されたかどうかを⑤によって検討する。
	⑧考察	③が機能したのはなぜか、機能しなかったのはなぜかを検討する。
	⑨研究の総括と今後の課題のまとめ	この研究で何が明らかになったか、また実践上の課題や、さらにどのような教育活動が必要かをまとめる。

フォローアップ研修（2年目） 課題研究構想シート

所属校	氏名	
1	児童生徒の実態や自身の授業力の実態（強み弱みを含めて）→「研究動機」との関わり	<p>4 時間があれば、例文を参考に して「研究の目的」の下書きを書 いてみましょう。</p> <p>【研究の目的】</p> <p>〇〇を通して、〇〇できる資質・ 能力を育むとともに、〇〇等の取組 の効果を明らかにする。</p>
2	どのような児童生徒の姿をめざすのか、どのような資質・能力を伸ばしていくのか →「研究の目的」との関わり	
3	そのためにもどのような手立てを行うのか→「研究の目的」「研究の方法」との関わり	

# 学習指導案の役割と書き方・考え方（基本型）

## 1 学習指導案の役割

学習指導案を作成することは「どのような資質・能力を身に付けさせるために」「どのような学習指導を行うのか」という内容や手順を具体的に考えていくことです。指導者は、年間指導計画に基づいた系統性や単元全体の目的、対象となる児童生徒の実態や課題を踏まえてどのような内容をどのような学習活動を通して指導していくのかという単元を構想したうえで、毎時間の流れと内容を考え必要な準備をしていきます。学習指導案を作成することで、その内容や指導方法を事前に考えたり工夫したりしながら練り上げていくことができます。つまり、学習指導案は、単元を見通したうえでその時間のねらいを達成するためのとても重要な計画であるといえます。

研究授業では、授業のねらい、工夫点、指導者の指導上の留意点等、授業参観の観点を明確にしておくことが重要です。また、児童生徒の実態や自校のめざす児童生徒像等についてあらかじめ知っておいてもらいたいこともあります。このようなとき、学習指導案は、共通理解を図るための資料として重要な役割を果たします。

授業後には、児童生徒の様子や自分自身の指示や発問等の指導を振り返って成果や課題を明らかにすることが必要です。その際、児童生徒の反応や計画の変更点、反省点など書き込みがされた学習指導案は授業記録としての役割を果たし、研究協議の話し合いを深め改善案や有効な手立てを出し合うことで、次の授業構想への準備にもなります。

## 2 学習指導案（各項目）の意味と書き方

### （1）単元（題材）名

単元名とは、いくつかの教材や活動で意図をもって構成された一連の学習活動を示す名称である。また、教科の中でも、音楽、図画工作、家庭、美術、技術・家庭等においては、「単元名」ではなく「題材名」と表記されることもある。学習指導要領に示された各内容項目の有機的な関連を図って一つの指導単位にまとめて組織した場合には「題材名」と表記する。

また、総合的な学習の時間は「単元名」で、道徳科は「主題名」で、特別活動は内容により、「議題」、「題材」で表記する。

#### 【チェックポイント】

学習のねらいや内容が一目でわかるように明記されている。

「単元名」・「題材名」等が教科等に応じた表記になっている。

（例）

道徳科 : 主題名  
「やさしいきもちで」

特別活動 : 議題「どうぞよろしくの会をしよう」  
題材「すてきな言葉」

総合的な学習の時間 : 単元名「捺染(なっせん)ぞめで自分たちの手拭いを染めよう」

教材名「はしの上のおおかみ」  
ねらい「身近にいる幼い人や高齢者に  
温かい心で接し、親切にする。」

「単元名」・「題材名」等と「教材名」が混同されていない。

（混同例）

国語科 × 単元名「ごんぎつね」

○ 単元名「読んで考えたことを話し合おう」

## (2) 単元(題材)目標

単元(題材)目標とは、学習指導要領に示された目標及び内容に基づいて、意図をもって構成された一連の学習活動(単元)をふまえた教師側の指導計画上の目標である。そのため、「～できるようにする。」「～を身に付けさせる。」といった教師を主語にした文末表現となるが、児童生徒を主語にした方が設定しやすい教科は「～する。」「～できる。」「～を味わう。」等で表現することもある。いずれにしても、1つの指導案の中で、視点が混在することなく統一した表現になっていることが大切である。

なお、3つの柱で整理された育成する資質・能力ごとに記述する場合もあるが、ねらいを絞ることから、単元(題材)全体の目標を1文(程度)で記述する場合もある。

### 【チェックポイント】

- 学習指導要領や各教科等の学習指導要領解説を参考に、単元全体で身に付けさせたい 資質・能力が明確にされている。
- 学習を通してめざす児童生徒の姿が簡潔に記述されている。
- 複数の目標がある場合、主語(視点)が混在していない。

## (3) 単元(題材)の評価規準

教師は、各教科等の目標の実現に向け、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすために、学習評価を行っている。一方、「学期末や学年末の事後的な評価に終始してしまうことが多く、学習評価の結果が児童生徒の学習改善につながっていない。」「教師によって評価の方針が異なり、学習改善につなげにくい。」など、現状の学習評価についていくつかの課題が指摘された。

このような課題や教師の働き方改革等の状況を踏まえ、「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」(中央教育審議会)において、学習評価の改善の基本的な方向性が示された。

- ・児童生徒の学習改善につながる評価にすること。
- ・教師の指導改善につながる評価にすること。
- ・これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと。

各教科等の評価については、「観点別学習状況の評価」と「評定」がある。「観点別学習状況の評価」とは、学校における児童生徒の学習状況を、複数の観点から、それぞれの観点ごとに分析する評価のことである。「評定」は、各教科の学習の状況を総括的に評価するものであり、数値で表す。

各教科等の学習において、どの観点で望ましい学習状況が認められ、どの観点到課題が認められるかを明らかにすることにより、具体的な学習や指導の改善に生かすことを可能とするものである。各学校において目標に準拠した観点別学習状況の評価を行うに当たっては、観点ごとに評価規準を定める必要がある。

評価規準とは、観点別学習状況の評価を的確に行うため、学習指導要領に示す目標の実現の状況を判断するよりどころを表現したものであり、新しい学力観に立って児童生徒が自ら獲得して身に付けた資質・能力の質的な面を表したものである。

単元の評価規準は、内容のまとまりごとの評価規準を踏まえて作成する。その際、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(小学校、中学校)』(令和2年3月 国立教育政策研究所)及び『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(高等学校)』(令和3年8月 国立教育政策研究所)を活用するとよい。

【チェックポイント】

- 自校の指導計画に基づき、単元ごとに各観点に即して「概ね満足できる」状況が設定されている。
- 各観点の評価規準が、単元目標を踏まえて具体的に設定されている。
- 文末が「～しようとしている。」「～している。」「～ができる。」等の児童生徒の状態を示す表現になっている。

(4) 単元(題材)について

① 教材観(教材について)

指導者が、学習指導要領に示された目標及び内容に基づいて、単元設定の意義と単元のもつ価値を明確にし、教材に対してどのような見方をもっているのかを述べるところである。そのため、指導者がその単元をどのように理解し、児童生徒の資質・能力を育成するためにこの単元や教材がどのような意味をもち、今後の学習にどのようにつながっていくのか、他学年や他教科等の学習とどのようにつながっているか、実生活とどのように結びついているか等を示すことが大切である。

【チェックポイント】

- 学習指導要領に示された目標や内容との関連が記述してある。
- 児童生徒の資質・能力を育成するために単元や教材のもつ教育的意義や、他教科、実生活等との関連が述べてある。

② 児童・生徒観(児童生徒について)

指導者が、児童生徒の実態を調査や観察により客観的にとらえ、一人一人の学習に対する構えなどを具体的に述べるところである。

なお、児童生徒の課題にだけ目を向けるのではなく、個や集団のよさに着目することが必要である。ただし、児童生徒の課題が記述してある際には、個人情報保護の観点から、個人を特定できるような記述は避ける必要がある。また、学級の構成や児童生徒の実態を表す必要がある場合は、男女の区別を必要とするとき以外は、性別表記はしない。

【チェックポイント】

- 単元に関わって児童生徒がどのような実態(レディネス)であるのかが記述してある。
- 単元に関わるこれまでの学習履歴の状況が記述してある。
- 学習に対しての学級集団の特徴について記述してある。
- 小・中学校・義務教育学校においては、全国学力・学習状況調査や県学力調査から見られる課題等について必要に応じて記述してある。

③ 指導観(指導にあたって)

教材観及び児童・生徒観を踏まえて、単元全体の学習指導の具体的方法や手立てについて述べ、さらに本時の指導を具体的に述べるところである。

【チェックポイント】

- 教材教具、学習形態、学習過程、教師の支援のポイントなどについて指導者の意図的な活動が記述してある。
- 単元全体の指導に合わせ、本時の指導が具体的に記述してある。

※特別支援教育の指導案の場合は、前頁(3)「単元の評価規準」及び(4)「単元について」に児童生徒一人一人についての実態・目標・評価規準・手立てを記述する。(=個別の支援計画)

※①～③の順序性はない。

## (5) 単元(題材)の指導と評価の計画

### ① 目標・学習活動

各時間の目標・学習活動は、その時間でどのような資質・能力を身に付けさせるのか、どのような学習活動を行うのかが明確になっていることが大切である。

#### 【チェックポイント】

- 目標や学習活動は学習指導要領の該当箇所を根拠に具体的に示されている。
- 単元目標を達成するための学習活動の流れに具体性と必然性がある。
- 単元目標や本時の目標をそのまま当てはめた表現ではなく、児童生徒が実際に行う学習活動を具体化した表現(「どのようなこと」を「どのようにして行うか」)で記述されている。

(例) ×「かけ算の答えの求め方を理解する。」

○「かけ算の答えは、同じ数の足し算で求められることを図で表す。」

### ② 学習評価

毎時間、3つの観点全てについて評価したり、児童生徒全員について記録をとり総括の資料とするために蓄積したりすることは現実的でない。単元の目標を分析し、各時間のねらいにふさわしい1~2観点到評価項目を精選するとともに、記録に残す場面も精選することが大切である。そこで、児童生徒全員の学習状況を記録に残す場面や適切に評価するための評価方法等の計画を立てておく。下表は、算数において「指導に生かす評価」の場面、「記録に残す評価」の場面及びそれぞれの評価方法を表した単元指導計画の例である。

「指導に生かす評価」は、主に「努力を要する」状況と考えられる児童生徒の学習状況を確認し、その後の指導に生かすための評価である。また、「記録に残す評価」は学級全体の児童生徒の学習状況について総括の資料にするための評価である。

### ③ 指導と評価の計画の表記例

(例) 指導と評価の計画(全○時間 本時 ○ / ○)

次	時	目標 又は ねらい	主な学習活動	評価規準(評価方法)		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(1) 6の だん、 7の だん	1	6の段の九九の構成の仕方を考えることができる。	累加や乗法の積の関係などから6の段の九九の構成の仕方について考える。		・思①(行動観察ノ ート分析)	・態①(行動観察、 ノート分析)
	2	6の段の九九を確実に唱え、適用することができる。	6の段の九九を唱えたり、九九表を見ながら、性質やきまりを見つけたりする。		・思②(行動観察ノ ート分析)	
	3		6の段の九九を使う乗法の問題に取り組む。	・知①(ノート分析) ・知③(行動観察)		
	4 5 6	7の段の九九(略)	7の段の九九(略)	★知①(ノート分析)	・思① ★思②(行動観察ノ ート分析)	★態①③(行動 観察、ノート分 析)
(2) 7 8	8の段の九九(略)	8の段の九九(略)	★知③(行動観 察)			

評価の観点の略称:「知」知識・技能、「思」思考・判断・表現、「態」主体的に学習に取り組む態度

①②③等は、単元の各観点別評価規準に記した①②③等を表す

「★」は総括の資料にするために記録に残す評価の機会を、「・」は指導に生かす評価の代表的な機会を表す。

※指導と評価の計画の表記については、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を参照すること。教科等によって異なる表記例が示されている。

【チェックポイント】

- 評価規準は、児童生徒が目標を達成した具体的な姿を設定している。
- 評価の観点は1つ程度としている。
- 評価方法が、(発言)(ノート)等として具体的に見取ることができるもので明記されている。

## (6) 本時の学習

### ① 目標

1時間の授業で、どのような資質・能力を身に付けさせるのかを記したものである。

【チェックポイント】

- 単元指導計画と整合性が取れている。
- 目標が2つ以上あるときは資質・能力別に記述してある。

「目標」「ねらい」「めあて」について

- ・「目標」「ねらい」は児童生徒に身に付けさせたい資質・能力。
- ・「めあて」は「目標」「ねらい」を達成するための学習課題を児童生徒向けの言葉で示したもの。

### ② 展開

時系列に児童生徒の活動と、その活動に対応した教師の動きや関わり方を示したものである。そのため、児童生徒の活動の部分では、問題解決的な学習過程でどのような活動を行うのかが大切である。また、教師の動きや関わり方の部分では、目標を達成させるための指導の工夫や児童生徒の反応に対する支援や働きかけをどのように行うのかが大切である。

【チェックポイント】

●児童生徒の学習活動の欄

- 見通し・振り返りが設定されている。
- 主な発問を設定し、それに対する児童生徒の予想される反応が記述してある。
- 各学習活動にかかる時間が記してある。
- 文末は、児童生徒が主語になり「～について考える。」「～について話し合う。」などの表現になっている。

●教師の支援の欄

- 児童生徒の予想される反応に対する支援が記述してある。
- 「努力を要する」状況から「概ね満足できる」状況にするための支援が記述してある。
- 教材や資料の使用場面や使用方法が記述してある。
- 評価規準と評価方法が記述してある。
- 評価規準は、本時の目標と整合性が取れている。
- 文末は教師の立場で記述し、「～を知らせる。」「～できるようにする。」などの表現になっている。

### ③ 評価(評価基準)

児童生徒に付けたい資質・能力を、具体的な児童生徒の成長した姿として文章表記した「評価規準」と違って、「評価基準」は、評価規準で示された付けたい資質・能力の習得状況の程度を明示するための指標を、数値(1・2・3)、記号(A・B・C)、または文章表記で示したものである。すなわち、設定した目標をどれだけ達成できたかの判断となる目安のことである。そのため、評価基準を「十分満足できると判断される状況」「概ね満足できると判断される状況」「支援を要する状況への手立て」として記述する。

毎時間設定する必要はなく、記録に残す評価を行う場合に設定する。なお、本時の展開の末に表記されることが多いが、単元の評価規準にあわせて表記することもできる。

#### 【チェックポイント】

- 単元指導計画の評価規準の内容と整合性が取れている。
- 評価基準が具体的に記述してある。

### 単元の評価規準にあわせて評価基準を書いている例

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
評価規準	①必要な部分の長さを用いることで、三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積は計算によって求めることができることを理解している。 ②三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積を、公式を用いて求めることができる。	①三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積の求め方を、求積可能な図形の面積の求め方を基に考えている。 ②見いだした求積方法や式表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現を見いだしている。	①求積可能な図形に帰着させて考えると面積を求めることができるといよさに気づき、三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積を求めようとしている。 ②見いだした求積方法や式表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高めようとしている。
「概ね満足できる」 状況	①底辺、高さ、上底、下底などの長さから、面積は計算によって求めることができることを理解している。 ②面積を求めるために必要な部分の長さから、公式を用いて面積を求めることができる。	①既習の求積可能な図形に帰着させて、面積を求めている。 ②求積方法やその式表現を振り返り、面積を求めたい図形の構成要素に着目して言葉の式をつくっている。	①既習の求積可能な図形に帰着させて、面積を求めようとしている。 ②求積方法やその式表現を振り返り、面積を求めたい図形の構成要素に着目して言葉の式をつくろうとしている。
「十分満足できる」 状況	①底辺を決めると高さが決まることを用いて、同じ図形の面積を複数の方法で求めることができることを理解している。 ②公式を用いて、同じ図形の面積を複数の方法で求めることができる。	①複数の方法で、既習の求積可能な図形に帰着させて、面積を求めている。 ②複数の求積方法やその式表現を振り返り、面積を求めたい図形の構成要素に着目して言葉の式をつくっている。	①複数の方法で、既習の求積可能な図形に帰着させて、面積を求めようとしている。 ②複数の求積方法やその式表現を振り返り、面積を求めたい図形の構成要素に着目し言葉の式をつくろうとしている。

- ・「平成27年度 道徳教育指導者養成研修」(文部科学省)文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 赤堀博行「講義5道徳教育を推進するリーダーとして」補助資料
- ・『楽しく豊かな学級・学校生活を作る特別活動 小学校編』文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成27年9月
- ・『(小学校編)今、求められる力を高められる総合的な学習の時間の展開』文部科学省 平成22年11月
- ・『学校教育辞典』第3版/教育出版
- ・『「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」の活用方法について 小学校・中学校編』国立教育政策研究所 教育課程研究センター 平成23年11月
- ・『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(小学校、中学校)』国立教育政策研究所 教育課程研究センター 令和2年3月
- ・『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(高等学校)』国立教育政策研究所 教育課程研究センター 令和3年8月

第2学年〇組 算数科学習指導案

※丸数字は「学習指導案の見方・指導のポイントチェックリスト」の番号に対応する

日時 令和〇年〇月〇日（〇）〇校時  
 指導者 〇 〇 〇 〇  
 場所 〇 〇 教室

①学習のねらいや内容が一目でわかるように明記 ②③

1 単元名 かけ算（2）九九をつくろう

2 単元の目標

④学習指導要領や各教科等の学習指導要領解説を参考に記述

かけ算九九を構成しその方法を考える活動やかけ算を用いたものの数の求め方を考える活動などを通して、乗法の意味について理解を深め、それを用いることができるようにするとともに、乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができるようにする。

3 単元の評価規準

⑤学習を通して目指す児童生徒の姿を簡潔に記述 ⑥複数の目標がある場合、主語を混在させない

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>乗法の意味について理解し、乗法が用いられる場合を知っている。</li> <li>乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。</li> <li>乗法九九について知り、1位数と1位数との乗法の計算が確実にできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数量の関係に着目して計算の意味や計算の仕方を考えたり計算について成り立つ性質を見いだしたりしている。</li> <li>乗法に関して成り立つ簡単な性質を調べ、乗法九九を構成したり計算の確かめをしたりすることに生かしている。</li> <li>簡単な場合について、2位数と1位数との乗法の計算の仕方を考えている。</li> <li>乗法が用いられる場面を、具体物や図などを用いて考え、式に表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進んで乗法九九を構成しようとしている。</li> <li>乗法について成り立つ性質や決まりを進んで見付けようとしている。</li> <li>乗法の式に表したり、式を読み取ったりすることに興味をもち、いろいろな場面を式に表そうとしている。</li> </ul>

4 単元について

⑦「概ね満足できる」状況が設定 ⑧単元目標を踏まえて具体的に設定  
 ⑨「～しようとしている。」「～している。」等の児童生徒の状態を示す文末表現

(1) 教材観（教材について）

本単元で扱う乗法は、学習指導要領には以下のように位置づけられ、学習の関連としては下図の通りである。

A 数と計算

⑩学習指導要領に示された目標や内容との関連の記述

(3) 乗法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

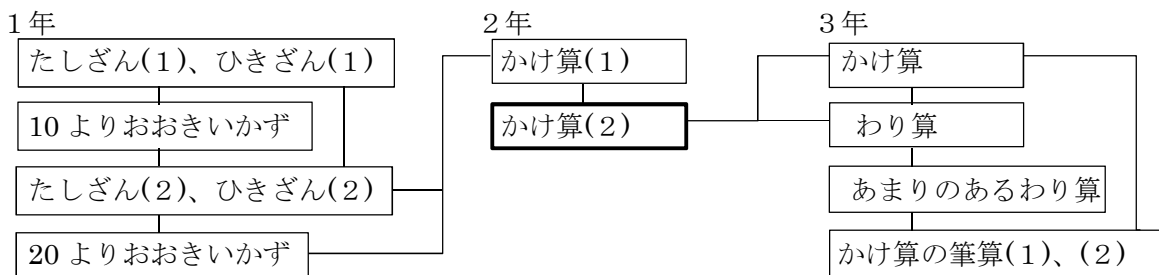
ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

- (ア) 乗法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。
- (イ) 乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。
- (ウ) 乗法に関して成り立つ簡単な性質について理解すること。
- (エ) 乗法九九について知り、1位数と1位数との乗法の計算が確実にできること。
- (オ) 簡単な場合について、2位数と1位数との乗法の計算の仕方を知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

- (ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。
- (イ) 数量の関係に着目し、計算を日常生活に活かすこと。

《本単元の学習の関連と発展》



本単元では、前単元に引き続き児童自ら乗法九九を構成したり数の並び方のきまりを発見したりしながら、乗法の意味について理解できるよう学習を進めていく。

乗法九九は、以後の学年で取り扱う乗法や除法の計算の基盤となるものであることから、体験的な活動や身近な生活体験などと結び付けて学習し、その習熟を図ることが大切である。また、乗法を生活や学習に活用しその有用性を感じさせ、進んで学習や日常生活に用いようとする態度を育てる上で有意義な単元である。

⑪単元等のもつ教育的意義や実生活との関連の記述

(2) 児童観 (児童について)

本学級は、25名の学級である。算数の学習に意欲的に取り組み、自分の考えを書いたり発言したりすることができる児童が多い。しかし、中には式は書いてもその数が表す意味を話すことや図を描くことが苦手な児童もいる。そこで、ペア学習を取り入れたり、ICTを活用したりしてみんなで学び合う活動を大切にしてきた。それにより苦手な児童も式の意味などを言葉や図に表すことができるようになりつつある。

前単元から、新たな乗法九九を習得することに喜びを感じ学習への意欲が高まっている。習熟を図る場面では反復練習のみにならないよう、ゲーム等を取り入れるなどして楽しみながら学習している。

日々の授業のノートの記述や小テストなどから次のような実態である。

- ① 大部分の児童が1つ分のいくつ分を表す乗法の意味を理解し、乗法九九は定着している。
  - ② 立式の時にかける数とかけられる数を間違える児童が数名いる。
  - ③ 図と式を対応させて表し求めることができる児童は6割程度である。
  - ④ 乗法九九(2の段～5の段)の定着が図れていない児童が数名いる。
- 以上のことから、乗法の式の意味理解の確実な定着には課題がある。

⑮学力調査等から見られる長所や課題等についての記述

⑯教材教具、学習形態、学習過程、教師の支援のポイントなどについて指導者の意図的な活動の記述

(3) 指導観 (指導にあたって)

本単元では、前単元で学習した乗法の性質やきまりを用いながら、児童自らが九九を構成していくような主体的な学習を大切にしたい。乗法九九の暗記のみの単調な学習にならないようにするため、数字の並び方や変化の規則性を感じることができる数図操作などの活動を取り入れていく。また、九九表を用い、数の並び方やきまり発見の面白さを感じることができるよう、対話的な学習を中心とした学び合いの時間の充実を図っていく。そうすることで乗法の意味理解を確実にするとともに算数の学習への意欲を高めていきたい。

本時は、乗法九九を活用して問題を解決する場面である。このとき、九九の構成の仕方を確認したり、工夫してまとまりを作ったりすることが必要となる。そこで、めあての提示後個人思考に入る前に数人に考えている求め方を尋ね課題解決の見通しがもてるようにする。また、考えがもちにくい児童にはヒントとなるワークシートを準備し思考の手助けとする。

学び合いの際には、ペアでブロックを操作して数のまとまりを確認したり、他者の考えを図と式を関連させながら全体で話し合ったりすることで確実に理解させたい。意見を取り上げる際、「同じ数ずつ囲む」考えや「分ける」「動かす」考えを中心に取り上げ、乗法九九を活用するよさを感じさせたい。振り返りの場面では自分にとってよりよい考えを意識させることで深い学びにつなげたい。終末では、日常生活の一場面を目を向けさせ、乗法を活用しようという意欲につなげていきたい。

⑰単元全体の指導に合わせ、本時の指導の記述

⑱目標や学習活動は学習指導要領の該当箇所を根拠に具体的に表現

⑲学習活動の流れに具体性と必然性がある。

5 単元の指導と評価の計画 (全17時間 本時15/17)

次	時	目 標	主な学習活動	評 価			
				知	思	態	評価規準 (評価方法)
				⑳実際に進行学習活動を具体化した表現で記述			
(1) 6、7の段の九九	1	6の段の九九の構成の仕方を考えることができる。	累加や乗法の積の関係などから6の段の九九の構成の仕方について考える。			○	乗法について成り立つ性質やきまりを用いて九九を構成しようとしている。(観察・ノート)
	2	6の段の九九を確実に唱え、適用することができる。	6の段の九九を唱えたり、九九表を見ながら、性質やきまりを見つけたりする。6の段の九九を使う乗法の問題に取り組む。			○	6の段の九九を見直すことを通して、乗法について成り立つ性質を考え言葉で表現している。(観察・ノート)
	3					○	※記録に残す評価の機会を設ける 6の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。(ノート)
	4	7の段の九九 (略) 8の段の九九 (略) 9の段の九九 (略) 1の段の九九 (略)	7の段の九九 (略) 8の段の九九 (略) 9の段の九九 (略) 1の段の九九 (略)	★		○	乗法について成り立つ性質やきまりを用いて九九を構成しようとしている。(観察・ノート)
(2) 8～11の段の九九	11					○	⑳評価方法を明記 7～1の段の九九を確実に唱えることができる。(観察・ノート)
(3)	12	図を見て基準量の何倍かを考え (略) を深める。	長さの違う2本のテープを用い (略) 求め方を考える。			○	倍を表す数が同じでも、基準量が異なる (略) を理解している。(観察・ノート)
(4)	13	九九表からきまりを見つけ (略) 理解を深める。	九九表からきまりを見つけ (略) について調べる。	★		○	各段の九九を構成するときに用いた (略) まとめようとしている。(観察・ワークシート)
(5) 活用	15 本時	乗法を用いて箱の中のチョコレートの数を考え、その方法を図や式に表すことができる。	乗法を用いたチョコレートの数の求め方を考え、それぞれの求め方を発表し、伝え合う。	★		○	乗法を用いたチョコレートの数の求め方を考え、それを図や式に表している。(観察・ワークシート)
(6) まとめ	16	学習内容を適用して問題を解決し、学習の定着を図る。	「力をつけるもんだい」と「しあげのもんだい」に取り組む。	★		○	学習内容を適用して、問題を解決することができる。(ノート)
	17					○	⑳目標を達成した具体的な姿を設定 学習内容を身に付けている。(ノート)

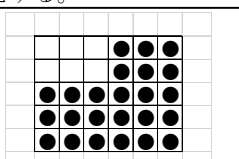
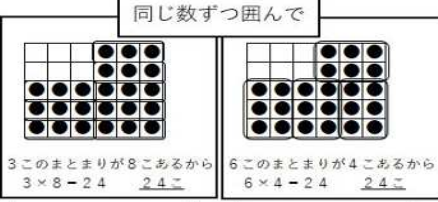
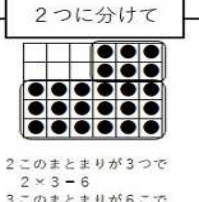
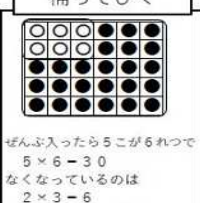
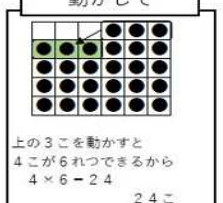
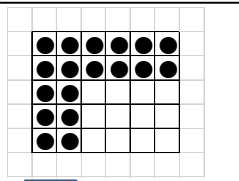
6 本時の学習

(1) 目標 (ねらい)

24 単元指導計画の目標との整合性・25 目標が複数ある場合観点別に記述・26 観点の付記

乗法を用いて箱の中のチョコレートの数の求め方を考え、図や式と言葉で表現することができる。

(2) 展開 (15 / 17 時間)

時	学習活動と予想される児童の反応	教師の支援 (・) と評価
5分	<p>1. 本時の問題を知り、めあてを確認する。</p> <p><b>問題1</b> はこの中のチョコレートは、ぜんぶで何こありますか。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>全員にチョコレートが渡せるかどうかを話題にし、チョコレートの入っている箱のふたを徐々にずらしながら問題を提示することで児童の興味を引く。</li> <li>箱の中のチョコレートの並びに意識を向けながら題意を理解させ、解決への意欲を高める。</li> </ul>
10分	<p><b>めあて</b> チョコレートの数をかけ算をつかってもとめよう。</p> <p>2. 問題に取り組む。</p>	<p>26</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>かけ算を使って求める方法を考えている数名の児童からその求め方のポイント聞き、学習への見通しをもたせる。</li> <li>思考の手助けとなるように、ノート用の図や書き込み式のワークシート等を準備する。</li> <li>『分けて』『動かして』『補って引く』の考えは、図と式の関係を理解できるように、ペアで図を示したりブロック等を操作したりしながらその操作を言葉で表現させ、数のまとまりを確認させる。</li> </ul>
15分	<p>3. 全体で学び合う。</p> <p>① 求め方を図や式と言葉で表現する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>同じ数ずつ囲んで</p>  <p>3このまとまりが8こあるから <math>3 \times 8 = 24</math> 2,4こ</p> <p>6このまとまりが4こあるから <math>6 \times 4 = 24</math> 2,4こ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>2つに分けて</p>  <p>2このまとまりが3つで <math>2 \times 3 = 6</math></p> <p>3このまとまりが6こで <math>3 \times 6 = 18</math></p> <p>これをあわせると <math>6 + 18 = 24</math> 2,4こ</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>補ってひく</p>  <p>ぜんぶ入ったら5こが6れつで <math>5 \times 6 = 30</math></p> <p>なくなっているのは <math>2 \times 3 = 6</math></p> <p>のっているチョコは <math>30 - 6 = 24</math> 2,4こ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>動かして</p>  <p>上の3こを動かすと <math>4 \times 6 = 24</math></p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>③0 子どもの予想される反応に対する支援の記述</li> <li>③1 概ね満足できる状況にするための支援の記述</li> <li>③2 教材や資料の使用場面や使用方法の記述</li> <li>③5 「～を知らせる。」「～するようにする。」等の文末表現</li> <li>児童の考えの中で、図と式が一致していないものや途中までのものがあれば取り上げ、全体で考えることで、自分の考えのよい点を知らせ、改善点を見つけたり、理解を深めたりできるようにする。</li> </ul>
5分	<p>② それぞれのやり方のよさについて学び合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同じ数のまとまりをつくと、かけ算で求められる。</li> <li>上下、左右に分けて考えると求めやすい。</li> <li>チョコレートはないのに「ある」とみて計算して、後から引く方法はすごいと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まず多様な考え方を認め、それぞれの妥当性やよさを目を向けさせ、よりよい方法への意識付けをする。</li> <li>計算の仕方を分類することで、かけ算を用いて●の数を求めるよさを感じることができるよう価値づけを行う。</li> </ul>
5分	<p>4. 学習をまとめる。</p> <p><b>まとめ</b> 同じ数のまとまりをつくれれば、かけ算をつかってもとめることができる。ちがう並び方や箱のときはどうなるかな？</p>	<p>33 評価規準と評価方法の記述・34 本時の目標と整合性</p> <p>評価の観点 (思考・判断・表現) 乗法を用いたチョコレートの数の求め方を考え、それを図や式と言葉で表現している。 【観察・ワークシート】</p>
5分	<p>5. 適用問題をする。</p> <p><b>問題2</b> はこの中のチョコレートは、ぜんぶで何こありますか。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>数のまとまりがわかるように、色分けをした図がかいてあるワークシートを準備しておく。</li> <li>早くかけた児童にはその方法を認めた後、よりよい外の方法がないか尋ね、自分にとってよりよい方法を考え、見つけていくようにする。</li> </ul>
5分	<p>6. ワークシートにふり返りを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>図を二つに分けて考えたら、かけ算を使って解きやすかった。</li> <li>●を移動して長方形の形に並べたら <math>3 \times 6</math> で一気に答えが求められて簡単だと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容の理解と、多様な考え方やそのよさについてふり返らせる。</li> <li>最後に職員室の前に掲示してある賞状の写真を使い、日常の場面に活用する意欲へとつなげて授業を終える。</li> </ul>

(3) 評価

36 単元指導計画の評価規準の内容との整合性・37 評価基準の具体的な記述

十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て
<p>乗法も用いたチョコレートの数の求め方を考え、それを図や式と言葉で説明している。また、複数の方法を考えよりよい方法を選んでいる。☆様々な並び方や異なる箱の場合の求め方について考えるように誘う。</p>	<p>乗法を用いたチョコレートの数の求め方を考え、それを図や式と言葉で表現している。</p> <p>☆適用問題において、複数の方法で解くように指示し、よりよい方法について考えさせる。</p>	<p>数のまとまりを一緒に見つけ、それを色分けして図に表したり、ブロックを操作できるホワイトボードで操作したりできるようにする。</p>

「十分満足できると判断される状況」にするための手立ての記述があってもよい

## 第3学年〇組 理科学習指導案

※丸数字は「学習指導案の見方・指導のポイント  
チェックリスト」の番号に対応する

日時 令和〇年〇月〇日（〇）〇校時  
指導者 ○ ○ ○ ○  
場所 ○○○○ 教室

### 1 単元名 力学的エネルギー

④学習指導要領や各教科等の学習指導要領解説を参考に、本単元で身に付けさせたい力が明確にされている。

### 2 単元の目標

⑤学習を通して目指す生徒の姿が簡潔に記述されている。

- (1) 力学的エネルギーを日常生活や社会と関連付けながら、仕事とエネルギー、力学的エネルギーの保存を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けることができるようにする。
- (2) 力学的エネルギーについて、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、力学的エネルギーの規則性や関係性を見いだして表現できるようにする。また、探究の過程を振り返ることができるようにする。
- (3) 力学的エネルギーに関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。

### 3 単元の評価規準

⑨文末が「～しようとしている。」「～している。」等の生徒の状態を示す表現になっている。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
力学的エネルギーを日常生活や社会と関連付けながら、仕事とエネルギー、力学的エネルギーの保存についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	力学的エネルギーについて、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、力学的エネルギーの規則性や関係性を見いだして表現しているとともに、探究の過程を振り返るなど、科学的に探究している。	力学的エネルギーに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

### 4 単元について

#### (1) 教材観

⑩学習指導要領に示された目標や内容との関連が記述してある。

『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説理科編』は、「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」という科学の基本的な概念等を柱として構成され、小学校から中学校までの7年間を通じた内容の構成が示されている。「エネルギー」を柱とした内容として、小学校では「風やゴムの力の働き」や「振り子の運動」、「てこの規則性」などがある。また、中学校では「力の働き」や「電流」、「運動の規則性」などがある。このように、小学校第3学年から中学校第3学年までの系統的な学習を通して、「エネルギー」に関する基本的概念の一層の定着をはかることができるように構成されている。中学校第3学年の内容として位置づけられている本単元は、今までの学習を活用しながら直接的に「エネルギー」という用語を用いながら学習を進めることができる単元である。

#### (2) 生徒観

⑭学習に対しての学習集団の特徴について記述してある。

本学級は、33名の生徒が在籍している。第1学年のときから仮説を立てて観察、実験を計画する学習場面を設けてきたこともあり、観察、実験を計画し実行する学習に対して意欲的に取り組む生徒が多い。しかし、個人では思考することに苦手な意識をもっている生徒が多い。

生徒は、「エネルギー」についての学習を行ってきたが、「エネルギー」という用語を直接

⑫子どもの実態（レディネス）が記述してある。

⑬単元に関わるこれまでの学習履歴が記述してある。

用いた学習をあまり行ってきていない。そのため、エネルギーを抽象的な概念で捉えている生徒が多い。また、力学的な「仕事」と日常的に用いる「仕事」を混同して捉えている生徒もいる。「仕事」という用語は日常の生活の中で一般的に「人がはたらくこと」として使われているため、物体がする力学的な「仕事」を捉え難くしている。このように、「仕事」や「エネルギー」を抽象的に捉えている生徒は、「エネ

ルギー」と「仕事」の関係を見いだすことについて困難さが増すことが考えられる。

(3) 指導観

本単元は、生徒が理科の見方・考え方を働かせ

⑩学習形態、学習過程、教師の支援のポイントなどについて指導者の意図的な活動が記述してある。

ながら、探究の過程全体を主体的に遂行できるように進めていく。そのために、単元の導入では生徒がこれまで学習してきた既習内容と関連付けながら日常生活の中で起こっている「仕事とエネルギー」に関連する現象を観察し、疑問をもてるようにする。そして、生徒がその疑問から課題を設定できるようにする。次の学習から、設定した課題を解決するための学習活動を進める。その学習の過程においては、導入で生徒がもった疑問を1つずつ解決できるようにする。そして、最終的には設定した課題についての結論を生徒自身が導き出せるようにしていきたい。また、探究の過程を生徒自身が振り返ることができる時間を適宜設けるようにする。

⑪単元全体の指導に合わせ、本時の指導が具体的に記述してある。

本時は、導入において設定した課題を解決するための実験の

計画を立案する場面に当たる。まずは、既習の内容である「仕事」と「力学的エネルギー」のそれぞれについて確認する。次に、この2つを比較することで本時の課題を設定し、探究を進められるようにする。この課題について調べる実験を計画するためには、仮説を設定することが欠かせない。そこで、変化させる要因（独立変数）と変化する要因（従属変数）に着目しながら「～を…すれば、〇〇になる。」のように仮説を設定できるようにする。また、この仮説に基づいて実験を計画する際には、条件制御するという考え方に着目できるようにする。

実験を計画する班は、仮説が同じ生徒を集めて編成する。仮説が同じ生徒による班を編成することで、生徒の一人一人が計画した実験を行うことができ、意欲的な活動となることが期待できる。

このような学習活動を通して、生徒が自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成していきたい。

5 単元の指導と評価の計画（全15時間 本時6/15）

⑬学習活動は学習指導要領の該当箇所を根拠に具体的に示されている。

次	時	主な学習活動	評価		
			重点	記録	評価規準 [評価方法]
1	1~4		略		
2	5	・物体に力を加えて移動させたときに力が物体に対して行ったことが仕事であることを説明する。	知		力学的エネルギーの大きさは物体がされる仕事によって決まることを理解している。 [観察、ワークシート]
	⑥	・仕事と力学的エネルギーの関係を調べる実験を条件制御しながら計画する。	思	○	仕事と力学的エネルギーの関係を調べる実験を条件制御しながら計画しようとしている。 [観察、実験の計画書]
	7	・実験の結果を記録する。 ・実験の結果を整理し、グラフにまとめる。	知	○	仕事と力学的エネルギーの関係を調べる実験を行い、結果を記録している。 [観察、実験の計画書]
	8	・力学的エネルギーと仕事の関係を見いだして説明する。	思	○	力学的エネルギーと仕事の関係を見いだして説明している。 [観察、ワークシート]
	9	・滑車を使用するときの仕事の大きさを調べる実験を行い、規則性を見いだす。	思		道具を利用するときの仕事を調べ、実験の結果から規則性を見いだしている。 [観察、ワークシート]
	10	・二人の人が行った仕事の能率について推測し、仕事率を見いだす。	知	○	仕事の原理と仕事率について説明している。 [観察、ワークシート]
3	11~15		⑭評価規準は、生徒が目標を達成した具体的な姿を設定している。 ⑮評価方法が、(観察)(ワークシート)等として具体的に見取ることができるもので明記されている。		

## 6 本時の学習

### (1) 目標 (ねらい)

仕事と力学的エネルギーの関係調べる実験を条件制御しながら計画することができる。

⑭単元指導計画と整合性が取れている。

### (2) 展開

⑳生徒の予想される反応に対する支援が記述してある。

時	学習活動と予想される生徒の反応	教師の支援(・)と評価
5分	1. 「力学的エネルギー」と「仕事」とは何かを確認する。 ・「力学的エネルギー」は、位置エネルギーと運動エネルギーの和である。 ・「仕事」の大きさは、物体に加えた力の大きさと力の向きに移動させた距離との積で表される。	・前時の子どもがタブレット端末にかいたまとめを提示する。 ・「力学的エネルギー」と「仕事」について説明されているヒントカードをとってよいことを伝える。
2分	2. 学習の課題を確認する。 仕事と力学的エネルギーには、どのような関係があるのだろうか ～関係を調べるための実験を条件制御して計画しよう～	・視覚的に課題を示すようにする。
10分	3. 仮説を立てる。 ・高さが高くなるほど仕事が大きくなる。 ・速さが速くなるほど仕事が大きくなる。 ・力が大きくなるほど仕事が大きくなる。	・変化させる要因(独立変数)と変化する要因(従属変数)に着目しながら仮説が設定できるように思考ツールを使用する。
3分	4. 選択した仮説が同じである生徒同士で班を編成する。	・追求したい仮説が同じ友だちと班が編成できるようにする。 ・クラウドにあるヒントカードを見たり、理科室にある実験器材を使ったりしてもよいことを伝える。
15分	5. 実験の方法を考える。 ・垂直に金属を落下させてくいを打ち込む実験 ・斜面から小球を転がして木片に当てる実験 ・水平に台車を運動させてものさしに当てる実験	⑲文末は生徒が主語になり「～について考える。」「～について話し合う。」などの表現になっている。
5分	6. 実験の方法を発表し、学級全体で課題について検証可能であるかを考える。 ・小球の高さを変えて実験する必要がある。 ・速度計を用いて速さを計測する必要がある。 ・台車の質量を変えて実験する必要がある。	・タブレット端末に書いたものを見せながら説明してよいことを伝える。 ・実際に実験する器材を用いて説明してもよいことを伝える。
5分	7. 班で実験の計画書をまとめる。 ・小球の高さを規則的に変えて実験を行う。 ・速さ以外の条件を変えないように実験を行う。 ・台車の質量以外の条件は変えないで実験を行う。	評価の観点【思考・判断・表現】 仕事と力学的エネルギーの関係調べる実験を条件制御しながら計画している。 [評価方法：観察、実験の計画書]
5分	8. 学習を振り返る。 ・仕事の大きさを変化させる要因に着目しながら仮説を設定することができた。 ・一人では難しかったが、班で相談することで台車の質量だけを変えて質量によって仕事の大きさがどうなるかを調べる実験を計画することができた。	⑳見通し・振り返りが設定されている。 仮説を設定することができたか、条件を制御して実験を計画することができたかについて振り返るように伝える。 ・次の時間は計画した実験を実施し、その結果について考察し、結論を導出する学習を行うことを伝える。

### (3) 評価

十分満足できる状況にするための手立てが記述してあってもよい。

十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て
仕事と力学的エネルギーの関係を調べる実験を的確に条件制御するとともに適切な実験装置を用いて行うように計画している。 (さらに力を伸ばすための手立て) 計画した実験の方法が妥当なのかを検討するように伝える。また、実験の手順を検討するように伝える。	仕事と力学的エネルギーの関係を調べる実験を的確に条件制御しながら計画している。 (十分満足できる状況にするための手立て) 計画した実験は的確に条件制御できているかを確認するように伝える。また、どのような実験装置を用いるのかを検討するように伝える。	仕事を調べる実験を計画するためのヒントカードを参考にしたり、実験器材に触れたりしながら計画できるように支援する。

## 第1学年〇組 家庭基礎学習指導案

※丸数字は「学習指導案の見方・指導のポイントチェックリスト」の番号に対応する。

- ①学習のねらいや内容が一目でわかるように明記
- ②「単元名」または「題材名」等と教科、領域に応じて表記
- ③「単元名」等と「教材名」を混同しない

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇) 第〇限  
 指導者 〇〇〇〇  
 場 所 〇〇教室

1 単元名 成年として自立した経済生活を営むには  
 「家庭基礎」内容C 持続可能な消費生活・環境 (1)ア及びイ、(2)ア及びイ

- ④学習指導要領や各教科等の学習指導要領解説を参考に記述
- ⑤学習を通して目指す児童生徒の姿を簡潔に記述

### 2 単元の目標

- (1) 自立した生活を営むために必要な家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理、消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解するとともに、生活情報の収集・整理が適切にできる。
- (2) 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について、問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして、課題を解決する力を身に付ける。
- (3) 様々な人々と協働し、より良い社会の構築に向けて、生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。

- ⑦「概ね満足できる」状況が設定
- ⑧単元目標を踏まえて具体的に設定
- ⑨「～しようとしている。」「～している。」等の生徒の状態を示す文末表現

### 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解している。 ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解するとともに、生活情報を適切に収集・整理できる。	生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

### 4 単元について

- ⑩学習指導要領に示された目標や内容との関連の記述
- ⑪単元や教材のもつ教育的意義や他教科・領域、実生活等との関連

#### (1) 教材観

本単元は、高等学校学習指導要領（平成30年告示）「家庭基礎」の「C 持続可能な消費生活・環境」の(1)「生活における経済の計画」ア及びイと(2)「消費行動と意思決定」ア及びイとの関連を図っている。

民法改正により、令和4年4月1日から18歳成年となったことを踏まえて、単元のはじめに、成年になると何がかわるのかを理解するとともに、自分の生活を想起して財やサービスの購入や消費行動の課題を設定し、「生活における経済の計画」や「消費行動と意思決定」に関わる知識及び技能を身に付け、課題を解決する力を養い、自立した消費者として適切な意思決定に基づいた責任のある消費行動を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成することをねらいとしている。

小学校において、買い物や消費者の役割、中学校において、金銭の管理、物資・サービスの選択と購入、売買契約と消費者被害、消費者の権利と責任について学習しているが、消費者被害の低年齢化に伴い、消費者被害の回避や適切な対応が一層重視されることから、自立した消費者になるために必要な知識や技能を確実に定着させる必要がある。問題解決的な学習に取り組む中で、習得した知識や技能を活用し、批判的な思考を働かせて適切な意思決定を行う力を身に付けることができる大変有意義な単元である。

- ⑭学習に対する学級集団の特徴の記述

#### (2) 生徒観

本学級の生徒は、37名から構成されている。家庭科の学習では、3～4名のグループを作り、実習や話し合い活動を取り入れている。話し合い活動においては、ジャムボードを活用することが多いが、お互いの意見を共有し、活発に話し合いを行うことができる。

本学年は、3年時の誕生日には「成年」となる生徒たちである。既習単元である「自分らしい人生をつくる」においても、そのことを意識する様子が見られた。一方で、高額な契約ができるようになることや、契約の取消し権がなくなることなど未成年と成年の違いを知っている生徒はいない。

- ⑫単元に関わる生徒の実態の記述
- ⑬単元に関わるこれまでの学習履歴

また、悪質商法等については、中学校でも学習しているが、自分自身の生活と結びつけて考えることはできていない。消費者としての自覚がまだ、なかなか身につけていない。社会の目線として消費生活

⑯教材教具、学習形態、学習過程、教師の支援のポイントなどについて指導者の意図的な活動の記述  
⑰単元全体の指導に合わせ、本時の指導の記述

(3) 指導観

成年年齢引き下げは、消費者の立場としても大きな変化である。社会の変化が自身の将来に影響を及ぼす可能性を知ることで、消費者として自覚を持つ必要性を理解させたい。そこで、できる限り身近な事柄を取り上げることや、実践的・体験的な学習活動を取り入れることで当事者意識を育みたい。また、これまでの18歳よりも責任の重い18歳になることを認識させることで、今後の消費生活領域の学習に対する意識を高めたい。

第1～7時間目は、契約、家計管理など、生徒にとって身近な消費場面や消費行動を取り上げ、実践的・体験的かつ問題解決的な学習を通して、自立した消費者になるために必要な知識や技能を習得・活用する。『社会への扉（消費者庁）』や消費者被害防止リーフレット等、既存の教材を活用しながら、生徒がより具体的に考えることができるようにする。また、社会人になった時のことを想定し、給与明細を用いて、可処分所得や非消費支出など家計の構造やバランスについてシミュレーションしたり、若者に起こりやすい消費者トラブルを取り上げ、その背景や問題点について取り扱いつながりながら、自立した消費者に必要な知識や技能は何かを問い、これからの自分の生活や将来につなげて行動できるようにする。

第8～10時間目は、第1～7時間目に取り上げた内容を活用・応用し、自らの実践や行動に結び付けていく学習を行う。本時はその1時間目に当たる。県内の消費者センターに寄せられている実際の消費者相談を参考に、悪質商法やクレジットカードも含めた契約トラブルなど若者に多い消費者被害の事例をグループごとに割り当て、事例検討を行う。2時間目に各グループが担当した事例の発表を行い、それぞれの消費者被害の問題点や対応策を共有し、共通点をまとめさせることで、消費者被害を未然防止するための原理・原則に気づかせたい。グループで課題解決するには、全員が参加できるように、まず個人で考え自分の考えを持ち、その後グループで意見を出し合うようにする。その際、意見が出しやすいように、ジャムボード等を活用して、グループの意見や考えをまとめやすくする。グループ活動をすることにより、自分では気付かなかった問題を発見し、多様な解決策・対応策を創出し、よりよい生活の実現に向けて実践できる力を育みたい。

各授業の終了時には、その日の授業で学んだことを踏まえて振り返りのテーマを示し、自分の考えをまとめ、表現させる。学習を振り返らせることで学習の意味づけを行うとともに、本単元を通じた生徒の変容を見取りたい。

⑱目標や学習活動は学習指導要領の該当箇所を根拠に具体的に表現

5 単元の指導と評価の計画（全10時間 本時8/10）

⑲学習活動の流れに具体性と必然性がある  
⑳実際に学ぶ学習活動を具体化した表現で記述

次	目標	時	主な学習活動	重点	認識	評価規準・評価方法
1	自立した消費者をめざして自分の消費生活について問題を見だし、課題を設定することができる。	1	・成年になると何ができるようになるのか、生活にどのような変化が生じるのかについて話し合い、自立した消費者になるための消費生活の課題を設定して学習の見通しを持つ。  【単元全体を貫く課題】成年として、健康・快適・安全で、持続可能な自立した消費生活を営むためには、何がどのようにできるようにになればよいのだろうか。  【振り返り】成年になるとどのような責任が生じるか考える。	思		・生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費意思決定に基づいて、問題を見だして課題を設定している。（ワークシート）
	消費行動における意思決定や契約の重要性について理解することができる。	2	・様々な契約の事例から、契約とは何かを理解する。 ・契約に関わるトラブルについて事例をもとにその背景や問題点を話し合い、未成年と成年の違いを考える。  【振り返り】契約に関わるトラブルは、どのようなところに生じるか考える。	知	★	・契約するときの注意点、契約における未成年と成年の法律上の責任の違いについて理解している。（ワークシート、定期考査）  ・自らの消費行動における意思決定や契約の重要性について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。（振り返り）
	消費者保護の仕組みを理解することができる。	3	・若者に多い契約トラブルの現状と課題、救済方法、契約のキャンセルの可否についての法制度を理解する。  【振り返り】ネットショッピングをするときの注意点を考える。	知	★	・契約がキャンセルできる場合や、キャンセルの方法を理解している。（定期考査）  ・自らの消費行動における意思決定や契約の重要性について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。（振り返り）

※記録に残す評価

⑳目標を達成した具体的な姿を設定

㉓評価方法を明記

	家計の構造、家計管理について理解し、ライフステージと関連付けた経済計画を考えることができる。	4	・給与明細や平均的な1ヶ月の生活費をもとに、家計の構造を理解する。	知	★	・給料の仕組みや家計の構造について理解している。 (ワークシート、定期考査)
		5	・家計のシミュレーションからライフイベントや不測の事態に備えた生涯を見通した家計管理の重要性に気付く。  【振り返り】ライフイベントにおいて、どれくらいの支出が必要なのかを知り、それに備えた計画を考えよう。	思 態	○	・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージと関連付けて、課題の解決に向けて考え、工夫している。 (ワークシート) ・生涯を見通した経済の管理や計画の重要性について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 (振り返り、行動観察)
	キャッシュレス決済の特徴やクレジットカードの仕組みなど多様な契約について理解し、計画性のある使い方・合理的な使い方を考えることができる。	6	・多様な契約の仕組みや使い方を理解する。	知	★	・多様な契約の仕組みや使い方を理解している。(ワークシート、定期考査)
		7	・様々なキャッシュレス決済のメリットとデメリットについて考え、キャッシュレス決済のトラブルとその原因を考える。  ・キャッシュレス決済を利用するときの注意点を考える。 【振り返り】キャッシュレス決済のトラブルに遭わないための心がけや行動を考える。	思 態	★	・自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて問題を見いだして課題を設定し、課題の解決に向けて考え、工夫している。(定期考査) ・キャッシュレス化の進行による家計管理や計画の重要性について、課題の解決に主体的に取り組む、解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。(振り返り、行動観察)
2	若年者に多い消費者被害について、トラブルが起こる背景や問題点、消費行動における意思決定の重要性について消費者の権利と責任と関連付けて理解し、トラブルの対応策について考えることができる。	8 時	・グループに割り当てられた消費者被害の事例について、情報を収集し、トラブルの原因等について分析する。 ・消費者の権利と関連付けて適切な対応の仕方について考えて、話し合う。 【振り返り】9時間目と同じ	知 知	★	・若年者に多い消費者被害について、トラブルの概要や問題点、被害防止策に関する情報を適切に収集・整理している。(ワークシート、スライド) ・消費行動における意思決定の重要性について、消費者の権利と責任と関連付けて理解している。(定期考査)
		9	・各グループが担当した事例についての分析を、クラスで共有し、共通点を見いだす。 ・グループごとに消費者被害を防ぐための方法を考え、発表する。 ・発表をもとに若者に多い消費者被害を未然に防ぐための共通ポイントについてまとめる。 【振り返り】消費者被害に遭わないために気をつけることをまとめる。	思 態		・自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて、実践を評価したり改善したりしている。(ワークシート、ジャムボード)  ・消費行動における意思決定や契約の重要性について、課題の解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。(ワークシート、振り返り)
	10	・消費者トラブルの事例についての問題解決に取り組む。  ・自立した消費者になるために、今、自分にできることを考え、行動目標を立てる。	思 態	○ ○	・自立した消費生活を営むために、家計の管理や計画、適切な意思決定に基づいて行動することなどについての課題の解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。(レポート) ・自立した消費者として消費者の権利と責任や消費者問題に関心を持ち、適切な意思決定に基づいて行動することについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上に向けて実践しようとしている。(レポート、振り返り)	
<p>②評価の観点は1つ程度 ※本指導案では「主体的に取り組む態度」は【振り返り】を用いて単元全体を通して評価するため2つ設定している</p>						

○：「記録に残す評価」 ★：定期考査により「記録に残す評価」

## 6 本時の学習

### (1) 目標 (ねらい)

②4単元指導計画の目標との整合性

⑤5目標は資質・能力別に記述

若年者に多い消費者被害について、トラブルの概要や問題点、被害防止策に関する情報を適切に収集・整理することができるとともに、消費行動における意思決定の重要性について、消費者の権利と責任と関連付けて理解することができる。

(2) 展開 ⑳学習活動にける時間

時間	学習活動と予想される生徒の反応	教師の支援（・）と評価
5分	1. 本時の学習課題を確認する。 ①前回の学習内容を振り返る。 ②本時の学習課題を確認する。 ・若者が狙われやすい悪質商法を理解する。 ・悪質商法等の被害にあった場合の対処策を考える。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">㉔見通しが設定されている</span>	・本時の見通しが持てるように授業の流れを提示する。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">㉑子どもの予想される反応に対する支援の記述                      ㉒概ね満足できる状況にするための支援の記述                      ㉓教材や資料の使用場面や使用方法の記述                      ㉔「～を知らせる。」「～するようにする。」等の文末表現</span>
10分	悪質商法の被害に遭わないためには、どのようにすればよいのだろうか。 2. 県内の消費者センターに実際にあった消費者相談の概要から、若者が狙われやすい悪質商法の事例を知る。 ワンクリック請求、マルチ商法、デート商法、ネットショッピング など 3. なぜ18歳が悪質商法のターゲットにされるのかについて考える。 →知識がない。だまされやすい。被害に遭っても対応できない。未成年でなくなる。「未成年者取消権」が使えない。	・県内の最新の消費者相談の概要を伝えることで、消費者被害を自分事として捉えられるようにする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">㉗主な発問と予想される生徒の反応の記述                      ㉘「～について考える。」「～について話し合う。」等の文末表現</span>
30分	4. 2の事例を含め、最近多い9つの消費者被害の事例についてグループごとに調べたり話し合ったりして、スライドにまとめる。 ①概要 ②問題点 ③解決策や対応策 ④被害に遭わないために注意すべきこと <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">㉖振り返りが設定されている</span>	・未成年と成年の法律上の違いを思い出すよう働きかける。 ・各グループが担当する消費者被害の事例について、国民生活センターや消費者センターなど消費者行政のホームページから情報を得るよう伝える。 ・意見を出し合う際にはジャムボードを利用してよいことを伝える。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">㉓評価規準と評価方法の記述                      ㉔本時の目標との整合性</span>
5分	5. 本時の学習の振り返りをする。 ・今日学習したことを踏まえて、今日のテーマについての自分の意見を記入する。 →友人からの誘いでも安易に乗らずに、きっぱりと断るようにしたい。 クレジットカードの作成は、就職して収入を得られるようになってからにする。 おかしいと感じたらすぐに返事をせずに、信頼できる大人に相談する。 契約に関わる法律を勉強しておく。 被害に遭ったと思ったら、すぐに消費者センターに相談する。 6. 次回の学習の見通しをもつ。	評価の観点【知識・技能】 ・若年者に多い消費者被害について、トラブルの概要や問題点、被害防止策に関する情報を適切に収集・整理している。 （評価方法：ワークシート、スライド） ・消費行動における意思決定の重要性について、消費者の権利と責任と関連付けて理解している。 （評価方法：定期考査） ・自分のグループが調べた事例をもとに、悪質商法の被害に遭わないためには、どのようにすればよいかを考え、振り返りシートに記入するよう伝える。 ・発表の仕方を説明し、役割分担をしておくよう伝える。

(3) 評価 ㉑単元指導計画の評価規準の内容との整合性  
 ㉒評価基準の具体的な記述

十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て
信頼できる情報を適切に収集し、消費者、販売者のそれぞれの立場から多角的に事例を検討することができる。 消費行動における意思決定を行う場面で、売買契約の原理原則を踏まえて、法律にも触れながら批判的・分析的に考え、判断できる。 消費者被害に遭ったときの相談先を理解していることに加え、相談することが消費者の安心・安全な暮らしにつながることを理解している。	信頼できる情報を適切に収集し、事例を検討することができる。 消費行動における意思決定を行う場面で、売買契約の原理原則を踏まえて判断できる。 消費者被害に遭ったときの相談先を理解している。 （十分に満足できる状況にするための手立て） 事例検討は様々な立場から行うよう促す。意思決定を行う場面では法律にも触れて、根拠や理由を明確にして判断するよう促す。	国民生活センター、消費者センターなど消費者行政のホームページを閲覧して事例検討に必要な情報を収集するよう伝える。 意思決定を行う場面ではワークシートを見返して、契約の成立条件、消費者保護の仕組み等と関連付けて考えるよう促す。

「十分満足できると判断される状況」にするための手立ての記述があってもよい。

学習指導要領には、各教科等において「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養という、資質・能力の三つの柱の育成がバランスよく実現できるよう留意することが示されており、知的障がい特別支援学校の各教科等についても、学びの連続性の視点から、同様に整理されている。また、「各教科等を合わせた指導を行う場合においても、各教科の目標に準拠した評価の観点による学習評価を行うことが必要である」とあり、各教科等を合わせた指導においても、三つの柱の観点で、育てたい資質・能力を整理し、評価につなげていく必要がある。

このことを踏まえ、ここでは各教科等の評価規準を取り入れた各教科等を合わせた指導のサンプル指導案を示している。このサンプル指導案での評価規準は次のように捉えている。

**評価規準**

- ・単元の目標の達成に向けて、各教科等で児童生徒につけたい力について、学習指導要領を基に3観点で記述する。（高等部については、R4～年次進行での実施に留意すること。）
- ・各教科等を合わせた指導は幅広い内容を取り扱うのであらゆる教科等に関連することが多いが、**目標として取り扱う教科等であるかどうかを十分に吟味する。**
- ・児童生徒が複数在籍する場合、実態の幅広い特別支援学校や特別支援学級の状況から、児童生徒すべての「概ね満足できる」状況として表すことは難しいと思われる。よって、本単元を通して個々の児童生徒の観点別学習状況を評価するための質的なよりどころや視点を示す内容とする。

\* 丸数字は「生活単元学習指導案の見方・指導のポイントチェックリスト」の番号に対応する。  
★は、それ以外の記入のポイントについて記述している。

小学部5年1組 生活単元学習 学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日（〇）〇校時

★ 小中学校では指導者が複数の場合は、「T1、T2」「支援員」等と表すことが多い。

指導者 CT〇〇〇〇

AT①〇〇〇 AT②〇〇〇

場 所 〇〇教室、〇〇〇教室

- ① 学習のねらいや内容が一目で分かるよう明記する。
- ② 実際の生活や学習に関連した、児童生徒にとって分かりやすい単元名を設定する。

1 単元名 「1くみわくわくまつりをしよう」

- ③ 学校教育目標とのつながりを考慮し、生活単元学習としてめざしたい姿として（例えば「見通し」「課題解決」「意欲」「かかわり」等の視点で）記述する。
- ④ 単元全体を通して、目指す児童生徒の姿について簡潔に記述する。

2 単元の目標

- ・お楽しみ会などの経験を活かし、見通しをもちながら活動する。
- ・みんながおまつりを楽しむことができるようにお店について考えたり工夫したりする。
- ・いろいろな友達や教師とかかわり、思いや考えを伝えあいながら活動する。

- ⑥ 単元で目標として取り扱う各教科等の学習集団としての各観点の評価規準が、単元目標を踏まえて具体的に設定されている。
- ⑦ 文末は「～しようとしている。」「～している。」等の児童生徒の状態を表す表現にする。
- ⑧ 学習指導要領に示された資質・能力を踏まえて、単元の活動に応じた表現で記述する。児童生徒の実態が幅広い集団の場合は、上の段階の資質・能力を基準として設定することも考えられる。
- ★ 自立活動については、個別の目標であるので、ここには記述しない。
- ★ 特別活動の評価規準を表す場合は、学習指導要領に示された特別活動の目標及び内容を踏まえ、自校の実態に即し作成した観点を記述する。（\*小・中学校については、特別活動は合わせた指導として取り扱えないので注意する。）
- ★ 道徳については、この単元で目標として取り扱う内容項目について記述する。

3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お店担当の役割を果たすための知識や技能を身につけている。 (カ：役割)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが楽しめるおまつりになるように考えたり工夫したりしながら、進んで自分のお店の準備や店番の役割を果たそうとしている。 (カ：役割)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1くみわくわくまつりの活動を通して、身近な人に自ら働きかけたり、進んで学習に取り組もうとしたりしている。</li> </ul>
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お店担当として必要な言葉がけややりとりに気付いている。 (ア (ア))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お客さんに楽しんでもらえるような言葉がけややりとりを考えている。 (A聞くこと話すことウ)</li> <li>・「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」等のあいさつをしている。 (A聞くこと話すことエ)</li> <li>・相手に伝わるよう、声の大きさに気をつけて話している。 (A聞くこと、話すことオ)</li> <li>・おまつりに必要な事柄について、ちらしや表示に簡単な語句や文で表している。 (B書くことウ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に友達や教師に言葉を通して伝え合おうとしている。</li> </ul>
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お店の表示や看板を作りながら、材料のよさや特徴に気付いている。</li> <li>・いろいろな材料や用具を用いて、工夫しながらお店の表示や看板などを作っている。 (A表現) [共通事項ア (ア)]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おまつりをイメージしながら、作りたいお店の表示や看板などを思い付いたり、思いに合った材料や色を選んだりしている。 (A表現) [共通事項ア (イ)]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つくりだすことの楽しさに気づき、進んでおまつりに必要な物づくりに取り組もうとしている。</li> </ul>

\* 自立活動の目標については、6 - (2)に記載

\* 「単元の評価規準」に替えて、このように表記する場合もある。

3 目標として取り扱う教科			
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
生活	カ 役割	カ 役割	ウ
国語	ア (ア)	A聞くこと、話すことウエオ B書くことウ	ウ
図工	A表現 [共通事項ア (ア)]	A表現 [共通事項ア (イ)]	ウ

★ 段階目標ウを参考に作成するため、「ウ」と記入する。

⑨ 単元の目標や内容にかかわる児童生徒の実態を記述する。  
★ 個別の指導計画や学級経営案等も踏まえて記述する。

#### 4 単元について

##### (1) 児童観

本学級は、5年生5名で構成されている。知的障がい特別支援学校の小学部各教科1段階～3段階の内容を学習している。2学期になり、友達の様子を目で追ったり、休憩時間に友達を遊びに誘ったりと、学級の仲間を意識しながらかかわる姿が増えてきている。これまでに自分たちが経験した遊びを繰り返す姿が多いが、学習の中で行って楽しいと感じた遊びを休憩時間にも取り入れようとする姿も見られる。

表情や発声、タッチ等で自分の思いを表す児童や、経験したことや思ったことを言葉で伝える児童など、実態は様々であるが、それぞれが自分なり的手段で伝えようとする姿がある。書くことについては、経験したことなどを簡単な文で表す児童もいる。しかし、相手の思いを聞くこと、相手に伝わるように分かりやすく話したり伝えたりすること等にはまだ意識が十分でなく、うまくやりとりが続かないことも多い。

創作活動では、それぞれに好きな素材や色があり、経験したことを絵などで表すことが好きな児童が多い。図画工作では、筆やはさみ、のこぎり、かなづちなど様々な道具を扱う経験もしている。視覚認知の弱さや両手の協調動作に困難さがあり、道具の操作などに難しさがある児童もいる。

1学期には、生活単元学習でお楽しみ会の活動に取り組んだ。1回目は、自分たちのやりたい遊びに教師の提案した内容も加え、遊びに使う道具を作りながら、いくつかの遊びを行った。2回目は遊びコーナーを自分たちで担当して、参観日に保護者を招き一緒に楽しんだ。身近な人に思いを伝えながら、自分の仕事の役割を果たし「楽しかった。」と喜んでもらえたことが、達成感につながったようである。教師の支援を受けながらも、繰り返しの活動の中で見通しをもち、友達や教師とかかわりながら、自分の役割を意識して、目的のために必要なことを考えたり、準備したりすることが少しずつできつつある児童たちである。

⑫ 児童生徒にとって単元のもつ教育的意義や他教科・領域、実生活等との関連を記述する。  
⑬ 学習指導要領に示された各教科等の目標や内容との関連が記述してある。

##### (2) 教材観

本単元は、1学期に行ったお楽しみ会を発展させた内容である。参観日で保護者に喜んでもらえたことで、児童たちから、「もっとお客さんをよんでおまつりをしたい」との声があがった。児童たちは、例年地域の公民館まつりに参加している経験があり、おまつりに楽しいイメージをもっているようである。これらのことから、日頃かかわっている校内の友達や教師を招いて『おまつり』は、より児童たちの活動に対する目的意識が高まり、主体的に課題解決しながら学習に向かう姿が期待できる単元である。

おまつりは3つのお店（ボーリング屋さん、とんとんずもう屋さん、トランポリン屋さん）を設定する。このお店は、1学期のお楽しみ会で行った遊びをもとに設定されているため、活動に見通しをもちやすく、自分の役割を意識しながら自らの力で必要なことを考え、準備していく姿が期待される。今回はそこに、「たくさんのお客さんに楽しんでもらうためにどうしたらいいか」という視点での工夫も加えることで、生活科の、より高学年らしく、自分の役割を果たそうとする資質・能力を育成することができるのではないかと考える。お店に必要なものを準備する活動では、図画工作科の意欲的に自分なりのお店のイメージをもちながら表現する資質・能力を育成できる。また、いろいろな人とかかわりを楽しみながら、これまでの国語科で学んだ「相手に伝わりやすい話し方」について体験を通して深めていくことができ、より相手を意識しながら話したり伝えたりしようとする資質・能力の育成も期待できると考えた。

加えて、いろいろな人とかかわるおまつりやチラシ配りの活動、お店に必要な物をつくる活動は児童の自立活動のねらいの達成にもつながる。

1学期の学習を発展させ、友達や教師と一緒に考えたおまつりを通じて、身近なたくさんの人に喜んでもらうことで、さらなる達成感や自信にもつなげることができる単元である。

- ⑭ 児童生徒の実態に応じて目標を達成するための支援、教材教具、学習形態、学習過程など、指導者の意図的な活動について記述する。  
 ⑮ 単元全体の指導に合わせ、本時の指導について具体的に記述する。

(3) 指導観

見通しをもって主体的に活動に取り組むことができるように

毎時間の流れは決めておき、自分から活動に向かうことができるようにする。また、めあてと流れを掲示するとともにワークシートを用意することで、本時に行うことが明確に分かるようにする。教員は各グループにつくが、児童主体で活動を進めることができるように、基本的には見守り、必要に応じて実態に添った支援を行うようにする。

「お客さんが楽しめるおまつり」への気づきや工夫につながるように

第2次で実際に公民館まつりに参加することで、お客さんを招くおまつりへの具体的なイメージをもつことができるようにする。児童の活動内容としては、「おみせのひみつをさぐる」のミッションのもと、お客さんが楽しむためのお店の工夫をタブレットで撮影し、気づきをその後の活動に活かすことができるようにする。その際、「お店の人、なんて言ってる?」「お店の周りにはどんなものがあるかな?」等、お店の人の言動や掲示等に注目できるような言葉がけをする。

また、毎時間動画による振り返りを行うことで、友達や自分のよい点や改善点への気づきにつなぐことができるようにしたい。

いろいろな人とかかわり、伝え合う喜びを感じられるように

児童によっては、役割に応じた話し方について学習する中で一緒に「せりふカード」をつくり、必要に応じて活用できるようにする。また、おまつりに招く校内の教職員には、事前に児童の実態やねらいを情報共有しておき、前向きな言葉がけ、新たな気づきにつながる言葉がけをしてもらい、児童の意欲やより深い思考へ結びつけられるようにする。E児については、興味に合わせて遊び方を広げたり、担任が身近な教師や友達に本児との関わり方を伝え、好きなトランポリンをいろいろな人と楽しんだりできるようにする。

本時は、各グループで、本番を意識しながらお店の準備や練習を行う。できるだけ自分たちの力で準備できるよう児童主体で行うが、より当日のイメージをもって準備できるように、グループによってはATがお客さん役になり、気づきにつながる言葉がけをする。E児については、より本番に近いイメージで活動できるよう、他学級のかかわりのある教員にお客さん役となってもらう。

- ⑯ 評価の計画は、学習指導要領の該当箇所を根拠に具体的に示されている。  
 ⑰ 単元目標を達成するための学習活動の流れに具体性と必然性がある。  
 ⑱ 各教科等の評価の観点を各時1～2つ程度に焦点化して記述する。  
 ⑳ 自立活動については、児童生徒名と区分について記入する。ここでは特に目標として取り扱うものについてのみ記入する。そのため、児童生徒によっては目標に挙がらない場合もある。  
 ㉑ 幅広い実態の児童生徒が複数在籍する場合は、「3単元の評価規準」と同様に、一部の児童生徒にかかわる教科や観点についても記入する。

5 単元の指導と評価の計画 (全19時間 本時9、10/19時間)

次	時	主な学習内容	評価の計画			
			生活	国語	図工	自立活動
1	1、2	○「わくわくまつり」の計画を立てる ・1学期の活動を思い出しながら、内容や招待する人、役割を決める。	○ 思			
2	3、4	○お店の準備をする ・それぞれのお店に必要なものを考える。 ・お店担当としての言葉や台詞を教師と一緒にまとめる。	○ 知	○ 知		

	5、6	・公民館まつりに参加し、お客さんが楽しむための工夫（役割や表示、言葉がけなど）を探し記録する。	○ 知	○ 知		
	7、8	・グループで、お店に必要なものや表示を考え、作成する。			○ 知 思 主	D (環・身)
⑱ 児童生徒が実際に行う活動を具体化した表現で記述されている。						
	⑨、⑩ (本時)	・グループでお店の準備や練習をする。 (お店担当としてのやりとり、道具の設置、表示や看板づくりなど)	○ 思	○ 思	○ 思	D (環・身)
3	11、12	○「わくわくまつり」の宣伝に行く ・おまつりのチラシづくりをする。 ・招待する教師や友達に、チラシを配りに行く。			○ 思 主	A (人・コ) E (心・コ)
	13、14	○リハーサルをする ・練習したことを思い出しながら、本番と同じようにお店の練習をする。 ・振り返りをする。	○ 知	○ 思		
4	15、16 17	○「わくわくまつり」をする ・校内の教師や友達を招き、各グループでお店の運営をする。	○ 知	○ 思		A (人・コ) E (心・コ)
5	18、19	○振り返りをする	○ 主	○ 主		

⑳ 単元指導計画と整合性がとれている。  
㉑ 「2 単元の目標」から、生活単元学習で目指したい姿としての視点で目標を設定する。

## 6 本時の学習

### (1) 目標

- ・友達や教師とかかわりながら、お客さんを意識してお店の準備や練習をする。

㉒ 本時の目標に関係する個々の実態を記述する。

㉓ 単元の評価規準（または取り扱う教科の学習指導要領に示される内容）と照らし合わせながら、教科等と目標は観点ごとに設定する。  
㉔ 本時で目指す姿を、できるだけ具体的な児童生徒の姿で記述する。（「積極的に協力しながら準備することができる」→「考えたことを友達にアドバイスしたり、友達の意見を求めたりしながら準備する」等）  
★ 教科等と観点については、児童生徒それぞれで異なる場合がある。

### (2) 個別の目標

児童名	実態	目標
A	・お店のルールやゲームの手順を理解している。 ・教師や友達に話をするのが好きで積極的に話しかけるが、自分の思いが先に立って、相手に話が伝わりにくいことがある。	・考えたことを友達にアドバイスしたり、友達の意見を求めたりしながら準備しようとする。(生活) ・せりふカードを使い、お客さん役の教師の様子に合わせて、伝わりやすい声の大きさでお店の説明をする。(国語)
B	・目印を意識してボーリングのピンを設置したり、玉を拾って所定の位置に置いたりすることができる。	・お客さん役の教師がボーリングをしやすいようタイミングなどを考えながら、道具を設置しようとする。(生活)
C	・簡単な文を、ひらがなやカタカナで表すことができる。 ・お店のルールや、ゲームの手順については大まかに理解している。	・分かりやすいように伝える順序などを考え、ゲームの手順を簡単な文章で表す。(国語)

D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字を書いたり、絵を描いたりすることが好きである。すもう人形の絵を描くことにも、意欲的に取り組んだ。</li> <li>・視覚認知や両手協調動作の困難さがあり、道具の操作が難しいことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お客さんの視点から作りたい表示を思いついたり、思いに合った色や材料を選んだりする。 (図工)</li> <li><u>自立</u>・太い線を意識しながら、線に沿って切ることができるようにはさみの操作を調整する。 (環・身)</li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きなトランポリンの活動では、繰り返しの途中で、写真カード等を手掛かりにしながら、自分で準備をしたり、担任にサインを出して一緒に跳んだりすることができつつある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お店担当の一連の流れ（チケットをもらう→タイマーをセットする→一緒に跳ぶ→メダルを渡す）に教師と一緒に取り組もうとする。 (生活)</li> </ul>

(3) 展開 (別紙)

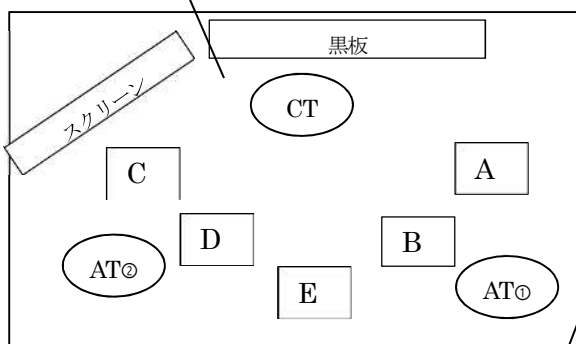
(4) 評価

- ① 各教科等の評価
  - ・本時の目標が達成できたか。
- ② 自立活動の評価
  - ・本時の目標が達成できたか。
  - ・目標の達成に向けてどのような変容があったか。

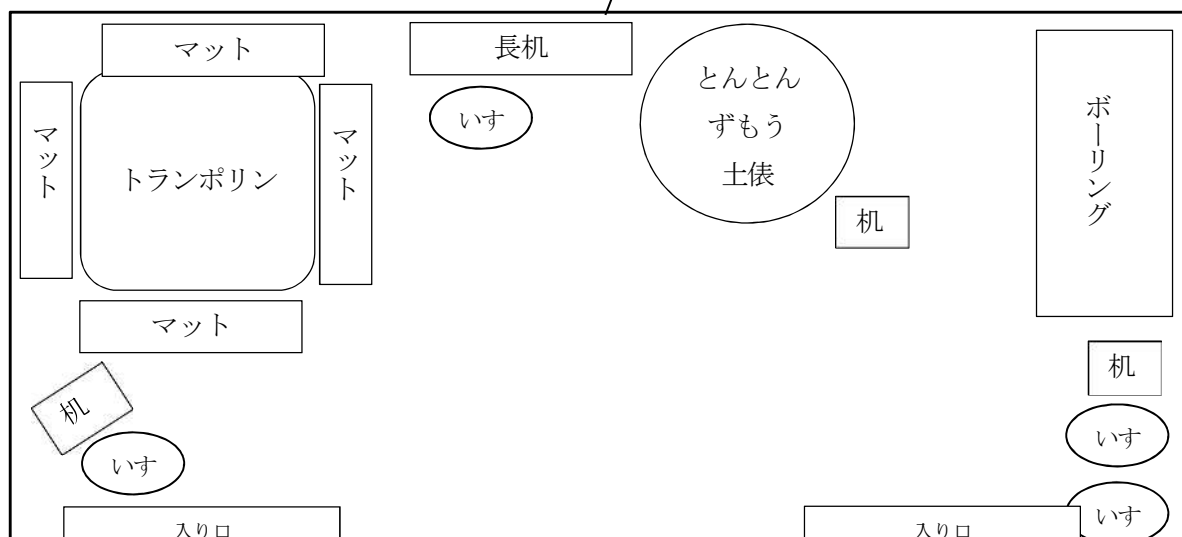
(5) 配置図

★ 活動の場の設置、児童生徒や教員の位置について、必要に応じて記入する。

〇〇教室



〇〇〇教室



時	学習活動	教師の支援(・)と評価(★)				準備物
		A	B	C	D	
(3) 展開		<p>③①文末は児童生徒が主体となる視点で記述する。「～させる。」という表現は避ける。</p> <p>③②児童生徒の予想される反応に対する支援を記述する。 ★児童生徒によって支援が異なる場合は、欄を分けて記入する。</p>				
10分	<p>○あいさつをする。(進行はAが行う。)</p> <p>○今日の流れを確認する。 ・ワークシートに今日のめあてを書き込む。</p>	<p>・今日の流れが分かりやすいよう、掲示とワークシートを準備する。 ・進行表を用意し、いつでも活用できるようにする。</p>			<p>・活動の流れを示した表を用意し、確認できるようにする。(AT②)</p>	ワークシート
30分	<p>○各グループでお店の準備をする。 【ボーリングやさん(A・B)】 ・お店担当の練習をする。 A: ボーリングの説明係 B: 道具係</p> <p>【とんとんずもうやさん(C・D)】 ・お店の説明(C)と看板(D)を作る。</p> <p>【トランポリンやさん(E)】 ・お店の準備をする。 ・お店の練習をする。 (チケットをもらう→タイマーをセットする→一緒に跳ぶ→メダルを渡す)</p>	<p>・本番を意識してできるよう、よかつたところをしっかりと伝える。 ・意欲につながるよう、よかつたところをしっかりと伝える。</p> <p>・必要に応じて、せりふカードを活用するよう、言葉がけをする。(AT①) ・必要に応じて、友達の様子に目が向くような言葉がけをする。</p>	<p>・公民館まつりで撮った写真や動画を参考にすることができるよう、用意しておく。 ・お互いの作ったものを見合いながら作るよう言葉がける。</p> <p>・適宜CTがお客さん役になり、分りにくかったところを伝えるようにする。</p>	<p>・友達作品を参考にしやすいよう、見やすい位置に掲示しておく。 ・必要に応じて、大き目の目安を書き示すようにする。</p>	<p>・気持ちは向きにくいときには、違う場所でクルダウンし、落ち着いてから活動に向かえるようにする。(AT②) ・より当日をイメージしやすいよう、他学級の教員にお客さん役になってもらう。 ・必要に応じて教師から写真カードを提示する。(AT②)</p>	<p>タブル ット お店で必要な道具 画用紙 ペン テープ</p>
10分	○片付けをする。	<p>★考えたことを友達にアドバイスしたり、友達の意見を求めたりしながら準備しようとしている。</p> <p>★せりふカードを使い、お客さん役の教師の様子に合わせて伝わりやすい声の大きさでお店の説明をしている。 【行動観察・ワークシート】</p>	<p>★お客さん役の教師がボーリングをしやすいようタイミングなどを考えながら、道具を設置しようとしている。 【行動観察・ワークシート】</p>	<p>★お客さんの視点から作りたい表示を思いついたり、思いに合った色や材料を選んだりする。 【行動観察・作品・ワークシート】</p> <p>★太い線を意識しながら、線に沿って切ることができるよう、はさみの操作を調整している。 【行動観察・作品】</p>	<p>★お店担当の一連の流れに教師と一緒に取り組もうとする。 【行動観察】</p>	
10分	○振り返りをする。 ・ビデオを見て、自分や友達のがなばっていたところについて話す。 ・ワークシートに振り返りを書く。 ○あいさつをする。	<p>・各グループで協力して片付けをすること、片付けが終わったら他のグループの手伝いもすることを言葉がけする。 ・片付ける場所が分かりやすいよう、目印をつける。</p>				テレビ

基本型のサンプル指導案（自立活動）から見た主な書き方のポイント

自立活動の授業づくりにおいて重要なことは、児童生徒の実態把握と指導目標の設定です。児童生徒の学習上、生活上の困難を理解し、困難が起きている原因を把握した上で指導目標を設定し、それを踏まえた具体的な指導内容を計画します。つまり、指導目標が、単元や題材の目標、本時の目標に関連するような授業づくりを行うことが必要です。

また、自立活動では学習上、生活上の困難さの改善克服を目指していくことから、児童生徒の課題ばかりに注目してしまうことがあります。しかし、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編には、自立活動は児童生徒が「主体的に」取り組むものである、と示されています。一人一人がもっているよさに注目しそれを活かすことや児童生徒の興味関心をもっていることを取り入れるなどの手立てや活動内容の工夫をすることが、授業者として欠かせない視点です。

さらに、自立活動の指導は、個別指導の形態で行われることが基本ですが、指導目標を達成する上で効果的である場合には、学習の集団を構成して指導することも考えられます。しかし、最初から集団で指導することを考えない点に留意する必要があります。

\*丸数字は「自立活動学習指導案の見方・指導のポイントチェックリスト」の番号に対応する。  
★は、それ以外の記入のポイントについて記述している。

小学校 知的障がい特別支援学級 自立活動 学習指導案

日 時：令和〇年〇月〇日 (〇) 〇校時  
場 所：〇〇教室  
授業者：〇〇 〇〇

1 題材名 「 にこにこゲーム大会をひらこう 」 ①児童生徒にとって、学習のねらいや内容が分かりやすい題材名が設定されている。

2 指導目標 ②単元の指導目標は、年間指導目標と関連性をもたせ、一人一人の児童生徒ごとに作成し、関連付けた内容の区分と項目を記載する。  
③文末が「～しようとしている。」や「～している。」等の児童生徒の状態を示す表記になっている。  
★個別の指導計画と関連させる。

目 標	
A (第4学年)	・自分の思いを相手に伝えたり、相手の思いを受けとめたりしながらにこにこゲーム大会の活動に取り組む。 【2心理的な安定(1)】【3人間関係の形成(1)】
B (第5学年)	・自分の思ったことや考えたこと、気持ちを友達や教師に伝える。 【3人間関係の形成(1)】【6コミュニケーション(2)】
C (第5学年)	・相手の思いや考えに意識をむけながら、にこにこゲーム大会の活動に取り組む。 【3人間関係の形成(2)】【6コミュニケーション(5)】
D (第6学年)	・自分の気持ちをコントロールしながら、友達との活動に取り組む。 【2心理的な安定(1)】【3人間関係の形成(4)】

④児童生徒の単元の指導目標を設定する理由となる実態を記述する。また、児童が主体的に取り組む自立活動の授業を目指すため、一人一人がもっているよさや興味関心も記載する。  
⑤学習に対しての学級集団の特徴、単元に関わるこれまでの学習履歴の状況について記述する。  
⑥年間指導目標は、個々の目標、関連付けた内容の区分と項目を記し、本単元に関する目標には◎をつける。

3 単元について

(1) 児童観

本学級は、6年生1名、5年生2名、4年生1名の計4名で構成されている。興味関心については、体を使った遊びやゲームを好む児童、図鑑などの本を読むことを好む児童など様々である。語彙力やコミュニケーションの姿も幅広いため、やりとりがうまくいかなかったりトラブルが起こったりすることもあるが、友達や教師とかかわりたいという気持ちはそれぞれがもっている。休み時間にはそれぞれで遊ぶことが多かったが、最近は合同学習で取り組んだ輪投げゲームで、誘い合って遊ぼうとする様子も見られるようになってきた。各児童の実態は以下の通りである。

	児童の実態	年間指導目標 (◎本単元に関する目標)
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科の学習では特別支援学校学習指導要領（以下、学習指導要領とする）2段階の学習を中心に行っている。</li> <li>自分の経験したことがないことについては、イメージがしにくかったり、不安を感じたりする様子が見られるが、経験のある活動には自分なりのイメージや思いをもち意欲的に取り組んでいる。</li> <li>児童同士のやり取りの中では、お互いに相手の思いや考えを十分に理解し合えないことが多いことから、自分の考え以外を受け入れにくく、やりたかった活動や遊びを十分にできずにもどかしい表情をしていることが多い。</li> <li>教師が仲立ちをすることで友達の意見に基づく活動を一緒に経験し、自分と違う視点を受け入れる様子も少しずつ増えてきている。</li> </ul>	◎自分の思いを相手に伝えたり、相手の思いを受けとめたりしながら活動に取り組む。 <b>【2心理的な安定（1）】</b> <b>【3人間関係の形成（1）】</b>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導要領2段階の学習を中心に行っている。</li> <li>テレビのバラエティー番組に興味をもっており、担任や身近な教職員には休み時間などにその話題について自分から話しかけることがある。</li> <li>決められた役割に自分からコツコツと取り組む姿がある。</li> <li>児童同士のかわりの中では、話題の内容やペースが合わない様子があり自信もないためか、自分からの発信は少なく、学習活動でも教師や友達からの働きかけを待つことが多い。</li> <li>健康観察の係活動をすることで、学級外の教職員とやり取りできる話題が少し広がってきている。学級でも自分がやりたいことを選択肢の中から友達に伝える姿が見られるようになってきている。</li> </ul>	◎自分の思ったことや考えたこと、気持ちを自分から友達に伝えることが増える。 <b>【3人間関係の形成（1）】</b> <b>【6コミュニケーション（2）】</b> ・衣服の前後を意識して、着替えをする。 <b>【4環境の把握（1）】</b> <b>【5身体の動き（3）】</b>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導要領3段階の学習を中心に行っている。</li> <li>図鑑を読むことやアニメのキャラクターに興味があり知識も豊富で、自分の好きなことや知っていること、考えたことについて周りの教師や友達に堂々と話す姿が多い。</li> <li>「話したい」という思いが強く、相手の思いや考えへの意識が弱い様子があることから、相手へ「一方的に話している」印象を与えたり、児童同士でうまくやり取りが続かず、お互いにいらだつ様子が見られたりすることもある。</li> <li>個別で行う自立活動では、学校生活での出来事を題材にして、イラストを用いて自分の気持ちと相手の気持ちを考える学習をしている。</li> </ul>	◎相手のペースに合わせて活動を行ったり、気持ちを考えようとしたりして、相手に意識をむけることが増える。 <b>【3人間関係の形成（2）】</b> <b>【6コミュニケーション（5）】</b> ・身体の力を入れる部位を意識して、正しい姿勢で座ることができる。 <b>【4環境の把握（1）】</b> <b>【5身体の動き（3）】</b>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校3年生の学習を中心に行っている。</li> <li>ゲームなどの勝敗のある活動を好み意欲的に活動することが多い。発想も豊かで、学習活動の中でも自分のアイデアを活発に発言し友達を引っ張っていく姿がよくみられる。</li> <li>「勝つこと」「一番になること」へのこだわりがあり、気持ちが高まると順番やルールを守ることへの意識が薄れて友達とトラブルになることがある。</li> <li>トラブルの後には教師と一緒にどうすればよかったか、自分はどうしたいかを振り返って考え、気持ちの落ち着く方法を試している。</li> </ul>	◎友達とやりとりをしながら、自分の気持ちをコントロールして活動に取り組む。 <b>【2心理的な安定（1）】</b> <b>【3人間関係の形成（4）】</b>

本学級の時間における特設された自立活動は、週2時間あり、そのうち1時間は指導目標ごとにペアや個別で学習を行ったり、もう1時間は本単元のように集団で取り組んだりしている。年間を通して、集団で学習をする時間を設定することで、一人一人の指導目標にある集団参加やコミュニケーションの基礎を養うことをねらっている。これまでの集団で学習する時間では、新任教師に名刺を作って自己紹介をする活動を通して、自分のことをどのようにして伝えたら良いか話し合ったり、友達の伝え方からさらに良い方法を考えて学び合ったりしてきた。

⑦取り扱う教材が児童生徒にとってどんな意味をもつか、この教材を通してどんな力を養うことができるか等を記載する。  
 ★集団での指導を行う時は、単元の指導目標を達成する上で集団での学習の効果について記述する。

## (2) 教材観

本単元では、自立活動の内容項目「2心理的な安定」「3人間関係の形成」「4環境の把握」「6コミュニケーション」を関連付けて単元の指導目標を設定した。集団でゲーム大会に向けて活動する中で、集団に参加するための基礎となる力、自分の気持ちをコントロールする力、コミュニケーションを円滑に行う力を養うことができると考える。

「輪投げゲーム」は、本学級の児童全員が興味関心をもち、児童から「輪投げゲーム大会をやりたい。」という意見が聞かれているため意欲的に取り組むことができ、さらに、ルールや使用する道具に様々な工夫を加えることができるゲームである。今回は、既製の輪投げゲームセットを使用するが、セットの杭（位置、高さなど）、輪（大きさ、形、重さなど）、輪を投げる回数、輪を投げる位置などについて考えることができる。児童が輪投げゲームで遊びながら話し合い、友達の意見と自分の意見に折り合いをつけながら決める姿が期待できる。

また、人を招いて「ゲーム大会」を開くことで、招待したい人を話し合っただけで決め、期待感を高めながら準備を行い、共にゲームを楽しむことができる。招待する人を加えたいつもと異なる集団の中で、相手を意識してコミュニケーションをとったり、自分の気持ちをコントロールしたりすることができると考えられる。

このような機会や活動を児童一人一人の指導目標に結びつけることで自然なかたちで単元を設定することができ、児童が取り組んでいるうちにそれぞれの課題に向かうことができるよさがある。

⑧教材教具、学習形態、学習過程、教師の支援などについて、指導者の意図的な活動を記述してある。  
★集団での指導を行う時には、指導者の意図を明確にするために一人一人の支援を記述する。  
⑨単元全体の指導に合わせ、本時の指導が具体的に記述してある。

### (3) 指導観

本単元では、児童が校内の人を招待する「にこにこゲーム大会」の活動を行っていく上で、次のことを大切にしていきたい。

#### 主体的に活動ができるように

単元の始めにどんなゲーム大会にしたいかを考えることで、児童が思いや願いをもちながら活動できるようにしていきたい。また「にこにこゲーム大会」の開催に向けて、「自分たちで決める」活動を取り入れることで、友達とのやりとりにも必然性が生まれ、より意欲的にやりとりができるようにしたい。児童が決める内容は、「招待したい人」「輪投げゲームの方法」「役割分担」などを考えている。話し合いを通して決め、実際にゲームをして振り返ることで活動のイメージをつかみやすくしたり、ルールについて考えたりすることができるようにしたい。

#### 自分に対して理解を深められるように

学習活動ごとに自分のがんばることをめあてとして、それを意識しながら活動ができるようにする。そして、活動後にめあてなどを振り返るようにする。活動に対して自分が「できたか。」「できなかったか。」だけでなく、活動中の気づきや思い、考えたことなどを振り返ることで、自分に対しての理解を少しでも深められるようにしたい。

#### 友達に意識を向けることができるように

学習活動には、児童同士が友達の表情や言葉から気持ちなどを想像する場面（ペア活動など）を作ったり、友達に意識をむけるきっかけとなる問いかけをしたりしたい。また、学習活動後にめあてと共に友達の様子とやりとりをした時の自分の感情を振り返る時間を設けるようにした。

#### 一人一人の支援について

##### Aに対する支援

ゲームの準備や話し合いの中で自分の考えや思いが友達と異なっており、解決策を見つけだしにくい時には、児童の気持ちを受けとめつつ、自分や友達の考えに基づく活動を体験して考えることができるようにしたい。また、友達の考えに意識を向ける様子や自分の考えを振り返る様子があることをとらえ、伝えることで自分の変容が意識できるようにしていきたい。

##### Bに対する支援

自分の考えや思いを伝えたことに充実感や達成感が感じられることを大切にしたい。招待状を渡す活動では、ゲーム大会についてやりとりができるように、事前に招待する教職員とBに願う姿について共有しておく。

また、話し合いの内容に応じて、思いや考えを表しやすいように、選択肢を入れた質問をしたり、仲の良いAとペアでの活動を設定したりする。

##### Cに対する支援

友達への意識が高まるように、話し合いの時は、友達の様子に意識を向けるような問いかけ（「Cの考えをどう思ったか。」など）をする。また、振り返りの時は、友達の様子を思い出しながら自分自身の振り返りができるように、ワークシートの設問を工夫する。

##### Dに対する支援

身近な教職員を招待するという意欲の高まりや期待感がある中で、気持ちをコントロールできる経験を積めるようにしたい。そのために、児童が「ゲーム大会まであと何日？」というように日程表を確認したり、招待状を渡す活動を設定して、招待をする教職員がゲーム大会を楽しみにしている様子を見たりする。

活動中に気持ちが不安定になった時には、教師がその気持ちを認め、Dが休憩場所で気持ちを鎮めるのを見守りつつ、活動にもどるきっかけとなる言葉がけをしていく。

本時では、輪投げゲームをやりながら、みんなが楽しくゲームをするためにはどうしたらよいかということを考える。その際、大人と児童が対戦した様子がイメージできるように、教師も招待する教職員の代わりとして参加し、ゲームに取り組んだ時の子どもと大人の結果の差からも考えられるようにする。

また、友達とやりとりをしながら自分の考えを伝えたり、友達の考えを受けとめたりするために、AとB、CとDのペア活動を行う。AとBのペアでは、安心感の中でゆっくりとしたペースで話し合いができるため、自分の考えを伝えやすくなり、相手の考えを受けとめる時間ができると思われる。CとDのペアでは、これまでの様子から考えが相反することが想像され、自分と相手の意見が異なった時にどうしたらよいか、考えて行動することが期待される。

両ペアとも教師は基本的には見守るが、それぞれの考えを引き出してやりとりをつないだり、相手の考えの理由に意識がむくように問いかけなどをしたりして、本時の指導目標に迫りたい。

⑩単元の指導目標を達成するために、学習活動の流れに具体性と必然性がある。

#### 4 単元指導計画 (全10時間 本時2/10時間)

次	時	主な学習内容
1	1	○1組ゲーム大会の計画をたてる ・どんなゲーム大会にしたいか考える ・招待する教職員を決める
	2 (本時)	○みんなが楽しめる輪投げゲームを考える ・全体でみんなが楽しめる方法を考える ・ペアでその方法を詳しく考える
	3	○輪投げゲームの方法を決定する ・ペアで方法を考えて、道具などを改良する ・決まったことや改良した道具を発表する
	4	○1組ゲーム大会の準備をする ・準備と当日の役割分担を決める (司会、輪投げゲームの説明、得点集計記録など) ・担当の準備をする
	5	
	6	○招待する教職員に招待状を渡そう ・どんなことを書くか考え、招待状を作成する ・渡し方を考え、練習をして招待状を渡す
	7	
	8	○リハーサル ・振り返りをして修正、改善する
2	9	○1組ゲーム大会をしよう
	10	○振り返りをする ・本番の動画を見ながら、振り返りをする

⑪単元の指導目標との整合性があり、具体的な内容にする。

★本時の指導目標の内容区分と項目は、単元の指導目標と同じであるため、記載しなくてもよい。

#### 5 本時の学習

##### (1) 本時の指導目標

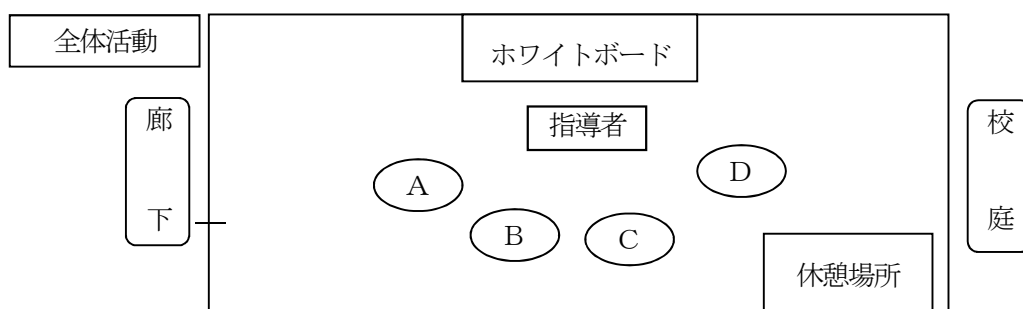
児童名	本時の目標
A	・友達とやりとりをしながら、楽しいゲームの方法を考える。
B	・自分のやりたいゲームの方法や、自分の感じたことを友達に伝える。
C	・友達の考えの理由や思いに意識を向けながら、みんなが楽しめるゲームの方法について考える。
D	・友達の考えを受けとめながら、みんなが楽しめるゲームの方法について考える。

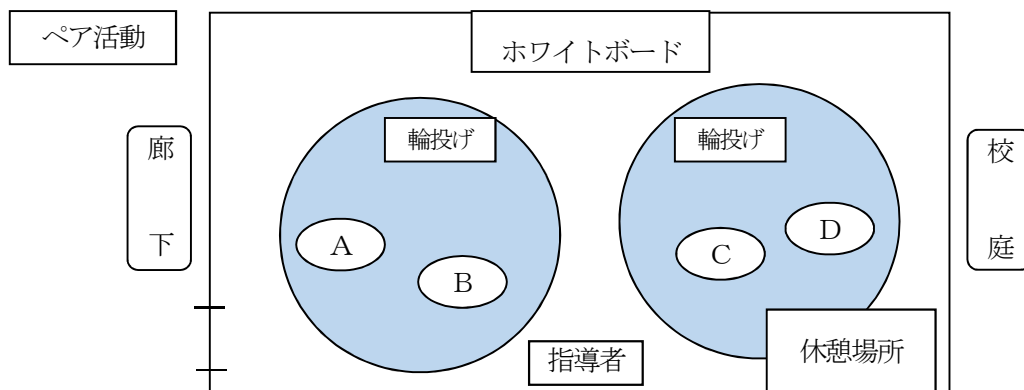
##### (2) 展開 別紙

⑫児童生徒の主体的な取組を支える手立てとして、児童の座席配置や活動場所、指導者の位置等を示す。

★必要に応じて記入する。

##### (3) 場の配置 (配置図)





## 6 評価

(各児童について)

- ・本時の指導目標が達成できたか。
- ・本時の指導目標の達成に向けてどのような変容（活動・振り返りの様子、ワークシートの記入内容、表情や言葉などから表れた内面の様子、つまづいた点）があったか。

⑨児童生徒が「指導目標に対して達成できたのか、できなかったのか」だけではなく、本時の指導目標や活動に対して「どのような態度で、どのような思いや考えをもって、変容していったのか」ということも評価をする。

★自立活動の評価は、本時の指導が指導目標に照らしてどのように行われ、児童生徒がその指導目標の実現に向けてどのように変容しているかを明らかにするものであり、学習活動の結果だけではなく、結果にいたるまでのプロセスも評価をしなければならぬ。展開例のように観察する場面と視点を明確にもち、授業後に簡単でよいので記録しておくことよい。また、評価の例のように観察や振り返りのワークシートの記述を記録しておくことよい。

(本時の評価の例)

**[D]** みんなが楽しめるゲームの方法を考えようとしていたが、自分の考えを認めさせようと言葉が荒くなることがあった。自分の考えがCと似ていることに気づいて相手に伝えることで、Cが準備に協力する様子が見られた。

振り返りのワークシートには、自分の考えがCと似ていてびっくりしたこと、子どもも楽しめるように子ども専用の杭を作ることを考えたという点が書かれていた。みんなが楽しめるゲームを考える中で、Cの考えに意識を向けられたと思われる。

### 自立活動における「教師の指導に対する評価」の重要性について

各教科等の指導においても重要視されていますが、自立活動の指導においては特に大切だと考えます。

それは、児童生徒一人一人の指導目標は、児童生徒の実態を基にして教師が考えたものだからです。日々、教師が指導目標の妥当性（「指導目標は、児童に実態に基づいているか。」「指導目標は、現在の児童に必要とされているものか。」等）について、繰り返し考えることで指導目標の方向性や内容の妥当性を高めることとなります。他にも、活動内容や一人一人の支援等を振り返って改善を行うことで、児童生徒の指導目標の達成に近づくことができます。

評価の視点については、下のような（評価の視点の例）と【教師の指導に対する評価の例】を参考にしてみてください。

(評価の視点の例)

- ①活動内容 ②活動量 ③活動の流れ ④教具 ⑤活動の場の配置 ⑥本時の指導目標の妥当性

※必要がある視点について評価を行う

**【教師の指導に対する評価の例】**（例では、全ての視点を評価している）

- ①導入で「自分が何をしたら楽しい輪投げゲームになるか」について考えた。  
「楽しい」の具体的なイメージがもつことができるような児童とのやりとりが必要だった。
- ②A Bのペア活動の時間が必要だった。次回、A Bの活動時間を確保しつつ、C Dの活動が早く終わった場合のことを考える必要がある。
- ③楽しくできる方法についてみんなで考えてから、ペアで具体的に考える流れは良かった。  
みんなで考える場面は、友達の様子をヒントに方法を考えることができた。
- ④ペアに1つずつ輪投げゲームがあることで、ペアのペースで考えることができた。
- ⑤ペアと指導者の位置は、指導者が両ペアを見守ることができる位置で適当だった。
- ⑥Aが他者の意見を受けとめるために（教師は）、A Bの間に入り多くのやりとりが必要だった。他者の考えを受けとめつつ自分の考えもいかに成功体験を今後も積めたら良い。

(2) 展開

時間	教師の支援(★)と期待される児童の姿(☆)、評価(☆)			準備物
	A	B	C	
10分	<p>学習活動</p> <p>今日の活動と単元のめあてを確認する 本時の活動の予定を知る</p>	<p>活動の予定(輪投げゲームを考える)と単元のめあて(みんなが楽しいゲーム大会にする)を予定表を提示して確認をする。</p> <p>本時の活動の流れをホワイトボードに書いて知らせる。</p> <p>みんなが楽しい輪投げゲームを考えよう</p>	<p>D</p> <p>④文末は教師の立場で記述し、「～を知らせる。」「～するようになる。」などの表現になっている。</p>	<p>予定表</p> <p>ワークシート 輪投げゲーム</p>
25分	<p>1. 今日めあてを具体的に決まるように、本時の活動の流れを基に児童とやりとりを行う。</p> <p>2. ワークシートを配付して、「自分が何をしたら楽しい輪投げゲームになるか考えよう」と問いかける。</p> <p>3. 今日めあてが具体的に決まるように、本時の活動の流れを基に児童とやりとりに伝える。</p> <p>4. ゲームをする中で、各児童の思いをとりえて、みんなが楽しくできるようにするためにどうしたらよいか、児童に尋ねていく。</p> <p>5. いろいろな立場で考えられるように教師も招待する人の代わりとなってゲームに参加し、積極的に輪を入れていくようにして、大人がプレイした時や児童がプレイした時の差を考えられるようにする。</p>	<p>自分の気持ちが変わっていることが感じられるように、Bの表情や身振りから気持ちを言語化して伝える。</p> <p>周囲の人に気持ちなどを伝える良さが感じられるように、他の児童にBの気持ちを想像する問いかけを行うので、その答えをBに返す。</p> <p>★決まっている位置から投げるけど、輪が入らない。 もっと前から投げたい。</p> <p>★先生が輪をどんどん入れる。大人はずるいな。子どもが入れるためには、どうする？</p> <p>★友達への意識を高めるために、友達への気持ちや、楽しくできているようにどうしたらよいかを考えることができるような問いかけを行う。</p> <p>★AとBが、輪を入れるためには、どうしたらよいか？</p> <p>★活動への意欲を高めるために、積極的に考える姿をとらえて、称賛をする。</p>	<p>④各学習活動にかける時間が記してある。</p> <p>⑤支援を行う理由を明確にするために、児童の予想される姿を記載する。</p>	
5分	<p>ペアで詳しく考える 輪投げゲームを操作しながら考える</p> <p>ペア (AとB) (CとD)</p>	<p>児童から出た意見をホワイトボードに整理することで、話し合う内容が分かりやすくなるようにする。</p> <p>★予想されるみんなが楽しく輪投げゲームができる方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1位になった人に景品をあげたい。</li> <li>輪を投げる位置を大人と子どもでも区別する。</li> <li>輪を投げる杭の高さを変える。</li> <li>杭を増やす。</li> </ul> <p>話し合いを基本的には見守る。意見がまとまらない時は、話し合いが進むように、それぞれの児童の考えを引き出しやりとりをしながら、児童同士で決めることができるようにする。</p> <p>★自分の変容に気づけるように、相手の考えを受けとめて、自分の考えを言う様子を認めてその姿を伝える。</p> <p>★考えや気持ちを伝える良さに気づけるように、自分の考えをAに伝えていく様子やAへの問いかけの様子を称賛する。</p> <p>★意見が相反した時には、Dに「どうしてそう思うか。」確認の質問をするように促し、相手の考えに気づけるようにする。</p> <p>Dの気持ちから分らず困っている時は、個別の自立活動で学習した内容と結びつけて考えられるような、言葉かけをする。</p> <p>★Dの考えは、自分の考えと同じところと違うところがあるな。 ★今、Dはこんな気持ちなんだな。</p>	<p>話し合いの様子を基本的には見守りながら、相手に意識を向けていたり、相手の考えを受けとめたりしていることに気づくような言葉かけをする。</p> <p>★話し合いの様子を基本的には見守りながら、相手に意識を向けていたり、相手の考えを受けとめたりしていることに気づくような言葉かけをする。</p> <p>★自分の考えで押し切ろうとせず、Cの考えを受けとめている時には、その姿を認め自分の頑張りに気づけるようにする。</p> <p>★楽しいゲームにしよう頑張っている姿やCの考えを受けとめた様子が見られた時は称賛をして、気持ちを安定させてあげよう。</p> <p>★Cの考えも面白いところがあつていいな。 ★楽しいゲーム大会になるように頑張るぞ。</p>	

10分	<p>⑮児童生徒の実態に即して、振り返りが設定されている。</p>	<p>☆友達とやりとりをしながら、ゲームの方法を考えている。【行動観察】</p>	<p>☆自分のやりたいゲームの方法や、自分の感じたことを友達に伝えたい。【行動観察】</p>	<p>☆友達の考えの理由や思いを意識を向けながら、みんなが楽しめるゲームの方法を考えている。【行動観察】</p>	<p>☆友達の考えを受けとめながら、みんなが楽しめるゲームの方法を考えている。【行動観察】</p>	
	<p>6. めあての振り返りをする</p>	<p>・ワークシートを使って、児童とやりとりをしながら、頑張ったことやその時の気持ちを問いかける。</p> <p>☆自分が頑張ったことに気づいている。【ワークシート、発言】</p>	<p>☆自分が頑張ったことやその時の気持ちに気づいている。【ワークシート、発言、指さし】</p>	<p>・友達への意識を高めるために、今日のめあての他に友達の様子や考えも振り返るような問いかけを行う。</p> <p>☆自分が頑張ったことに気づいたり、友達の様子を意識したりしている。【ワークシート、発言】</p>	<p>⑯評師の視点は、本時の指導目標と整合性がとれている。【行動観察】</p> <p>☆自分が頑張ったことに気づいたり、友達の意見を聞いてどう思ったか考えたりしている。【ワークシート、発言】</p>	ワークシート
	7. 片付け					
	8. 次回の活動予定を確認する					

## 学習指導案の見方・記入のポイントチェックリスト

項目	内容	チェック欄	
単元(題材)名	①学習のねらいや内容が一目でわかるように明記されている。		
	②「単元名」が教科、領域に応じた表記になっている。		
	③「単元名」等と「教材名」が混同されていない。		
単元(題材)目標	④学習指導要領や各教科等の学習指導要領解説を参考に、本単元で身に付けさせたい資質・能力が明確にされている。		
	⑤学習を通してめざす児童生徒の姿が簡潔に記述されている。		
	⑥複数の目標がある場合、主語(視点)が混在していない。		
単元(題材)の評価規準	⑦自校の指導計画に基づき、単元ごとに各観点に即して「概ね満足できる」状況が設定されている。		
	⑧各観点の評価規準が、単元目標を踏まえて具体的に設定されている。		
	⑨文末が「～しようとしている。」や「～している。」等の児童生徒の状態を示す表記になっている。		
教材観	⑩学習指導要領に示された目標や内容との関連が記述してある。		
	⑪児童生徒の資質・能力を育成するために単元や教材のもつ教育的意義や他教科・領域、実生活等との関連が述べてある。		
児童・生徒観	⑫単元に関わって児童生徒がどのような実態(レディネス)であるのかが記述してある。		
	⑬単元に関わるこれまでの学習履歴の状況が記述してある。		
	⑭学習に対する学級集団の特徴について記述してある。		
	⑮小・中学校においては、全国学力・学習状況調査や県学力調査から見られる課題等について必要に応じて記述してある。		
指導観	⑯教材教具、学習形態、学習過程、教師の支援のポイントなどについて、指導者の意図的な活動が記述してある。		
	⑰単元全体の指導に合わせ、本時の指導が具体的に記述してある。		
単元(題材)の指導と評価の計画	⑱目標や学習活動は学習指導要領の該当箇所を根拠に具体的に示されている。		
	⑲単元目標を達成するための学習活動の流れに具体性と必然性がある。		
	⑳単元目標や本時の目標をそのまま当てはめた表現ではなく、児童生徒が実際に行う学習活動を具体化した表現(「どのようなこと」を「どのようにして行うか」)で記述されている。		
	㉑評価規準は、児童生徒が目標を達成した具体的な姿を設定している。		
	㉒評価の観点を1つ程度としている。		
	㉓評価方法が、(発言)(ノート)等として具体的に見取ることができるもので明記されている。		
本時の目標	㉔単元指導計画と整合性が取れている。		
	㉕目標が2つ以上あるときは資質・能力別に記述してある。		
本時の展開	児童生徒の学習活動	㉖見通し・振り返りが設定されている。	
		㉗主な発問を設定し、それに対する児童生徒の予想される反応が記述してある。	
		㉘各学習活動にかかる時間が記してある。	
		㉙文末は、児童生徒が主語になり「～について考える。」「～について話し合う。」などの表現になっている。	
	教師の支援と評価	㉚児童生徒の予想される反応に対する支援が記述してある。	
		㉛「努力を要する」状況から「概ね満足できる」状況にするための支援が記述してある。	
		㉜教材や資料の使用場面や使用方法が記述してある。	
		㉝評価規準と評価方法が記述してある。	
		㉞評価規準は、本時の目標と整合性が取れている。	
		㉟文末は教師の立場で記述し、「～を知らせる。」「～するようにする。」などの表現になっている。	
本時の評価	㊱単元指導計画の評価規準の内容と整合性がとれている。		
	㊲評価基準が具体的に記述してある。		

## 生活単元学習指導案の見方・記入のポイントチェックリスト

項目	内容	チェック欄	
単元名	①学習のねらいや内容が一目でわかるように明記されている。		
	②実際の生活や学習に関連した、児童生徒にとって分かりやすい単元名が設定されている。		
単元目標	③学校教育目標とのつながりを考慮し、生活単元学習としてめざしたい姿として記述してある。		
	④単元全体を通してめざす児童生徒の姿が簡潔に記述されている。		
	⑤複数の目標がある場合、主語(視点)が混在していない。		
単元の評価規準	⑥単元で目標として取り扱う各教科等の学習集団としての各観点の評価規準が、単元目標を踏まえて具体的に設定されている。		
	⑦文末が「～しようとしている。」や「～している。」等の児童生徒の状態を示す表記になっている。		
	⑧学習指導要領に示された資質・能力を踏まえて、単元の活動に応じた表現で記述してある。		
児童・生徒観	⑨単元の目標や内容にかかわる児童生徒の実態が記述してある。		
	⑩単元に関わるこれまでの学習履歴の状況が記述してある。		
	⑪学習に対する学級集団の特徴について記述してある。		
教材観	⑫児童生徒の資質・能力を育成するために単元や教材のもつ教育的意義や他教科・領域、実生活等との関連が述べてある。		
	⑬学習指導要領に示された各教科等の目標や内容との関連が記述してある		
指導観	⑭児童生徒の実態に応じて目標を達成するための支援、教材教具、学習形態、学習過程など、指導者の意図的な活動が記述してある。		
	⑮単元全体の指導に合わせ、本時の指導が具体的に記述してある。		
単元(題材)の指導と評価の計画	⑯評価の計画は学習指導要領の該当箇所を根拠に具体的に示されている。		
	⑰単元目標を達成するための学習活動の流れに具体性と必然性がある。		
	⑱単元目標や本時の目標をそのまま当てはめた表現ではなく、児童生徒が実際に行う学習活動を具体化した表現で記述されている。		
	⑲各教科等の評価の観点を、各時1～2つ程度に焦点化して記述してある。		
	⑳目標として取り扱う自立活動について、児童生徒名と区分が記述してある。		
	㉑幅広い実態の児童生徒が在籍する場合は、一部の児童生徒にかかわる教科等や観点についても記述してある。		
本時の目標	㉒単元指導計画と整合性が取れている。		
	㉓「2 単元の目標」から、生活単元学習でめざしたい姿としての視点で記述してある。		
個別の目標	㉔本時の目標に関係する個々の実態が記述してある。		
	㉕単元の評価規準と照らし合わせ、教科等を目標が観点ごとに記述してある。		
	㉖個別の目標は、本時でめざす姿ができるだけ具体的な児童生徒の姿で記述してある。		
本時の展開	学習活動	㉗見通し・振り返りが設定されている。	
		㉘各学習活動にかかる時間が記してある。	
		㉙文末は、児童生徒が主語になり「～について考える。」「～について話し合う。」などの表現になっている。	
	教師の支援と評価	㉚児童生徒の予想される反応に対する支援が記述してある。	
		㉛児童生徒によって支援が異なる場合は、欄を分けて記述してある。	
		㉜教材や資料の使用場面等が記述してある。	
		㉝評価規準と評価方法が記述してある。	
		㉞評価規準は、本時の目標と整合性が取れている。	
		㉟文末は教師の立場で記述し、「～を知らせる。」「～するようにする。」などの表現になっている。	
本時の評価	㊱自立活動の目標がある場合は、自立活動の評価についても記述してある。		

## 自立活動 学習指導案の見方・記入のポイントチェックリスト

項目	内容	チェック欄	
単元(題材)名	①児童生徒にとって、学習のねらいや内容が分かりやすい題材名が設定されている。		
単元の指導目標	②単元の指導目標は、年間指導目標と関連性をもたせ、一人一人の児童生徒ごとに作成をし、関連付けた内容の区分と項目を記載する。		
	③文末が「～しようとしている。」や「～している。」等の児童生徒の状態を示す表記になっている。		
児童・生徒観	④児童生徒の単元の指導目標を設定する理由となる実態を記述する。また、児童が主体的に取り組む自立活動の授業を目指すため、一人一人がもっているよさや興味関心も記載する。		
	⑤学習に対しての学級集団の特徴、単元に関わるこれまでの学習履歴の状況について記述する。		
	⑥年間指導目標は、個々の目標、関連付けた内容の区分と項目を記し、本単元に関係する目標には◎をつける。		
教材観	⑦取り扱う教材が児童生徒にとってどんな意味をもつか、この教材を通してどんな力を養うことができるか等を記載する。		
指導観	⑧教材教具、学習形態、学習過程、教師の支援などについて、指導者の意図的な活動が記述してある。		
	⑨単元全体の指導に合わせ、本時の指導が具体的に記述してある。		
単元指導計画	⑩単元の指導目標を達成するために、学習活動の流れに具体性と必然性がある。		
本時の指導目標	⑪単元の指導目標との整合性があり、具体的な内容にする。		
場の配置	⑫児童生徒の主体的な取組を支える手立てとして、児童の座席配置や活動場所、指導者の位置等を示す。		
本時の展開	児童生徒の学習活動の	⑬文末は、児童生徒が主語になり「～について考える。」「～について話し合う。」などの表現になっている。	
		⑭各学習活動にかかる時間が記してある。	
		⑮児童生徒の実態に応じて、振り返りが設定されている。	
	教師の支援と評価	⑯文末は教師の立場で記述し、「～を知らせる。」「～するようにする。」などの表現になっている。	
		⑰支援を行う理由を明確にするために、児童の予想される姿を記載する。	
		⑱評価の視点は、本時の指導目標と整合性がとれていて、評価の方法が記載されている。	
本時の評価	⑲児童生徒が「指導目標に対して達成できたのか、できなかったのか」だけでなく、本時の指導目標や活動に対して「どのような態度で、どのような思いや考えをもって、変容していったのか」ということも評価する。		

## おわりに

授業づくりの研修はどうでしたか。

自分がめざしたい授業をイメージし、そのような授業を行うために、大切にしたいことや工夫したいことなどについて、自分の言葉で語れるようになりましたか。

主体的・対話的で深い学びを通して、子どもたちが資質・能力を身に付け、たくましく、豊かに歩んでくれることを願って、これからも日々の授業を振り返り、授業力を高めていきましょう。

フォローアップ研修(2年目)の「授業づくり」のねらいは、次のとおりです。

授業づくりにかかる自己課題に基づいた研究主題を設定し、その解決に向けて主体的に取り組む態度と実践力を身に付ける。

子どもたちに「生きる力」を育むために、向上心を持って学び続けましょう。



## 【授業づくり参考資料】

### ・しまねの教育情報 Web

みんなの笑顔のために。



研究大会の学習指導案など、授業づくりの参考になる情報を入手できます。

<http://eio-shimane.jp/>



○令和6年度 各教科等の指導の重点(島根県教育委員会)

○令和6年度版 授業チェックリスト(島根県教育委員会)

→ いずれも「しまねの教育情報 WebEIOS」からダウンロードできます。

### ・学習指導の基本を身に付けよう 授業づくりQ&A ~「よい授業」を目指して~

(平成 23 年3月 島根県教育センター・浜田教育センター)

<http://eio-shimane.jp/document/doc-class-making/160>



### ・【令和2年度版】学習評価ガイド[小学校・中学校](島根県教育委員会)

<http://eio-shimane.jp/curriculum/683>



### ・【令和4年度版】学習評価ガイド[高等学校](島根県教育委員会)

<http://eio-shimane.jp/curriculum/817>



### ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

小学校、中学校 (令和2年3月 国立教育政策研究所)

高等学校 (令和3年8月 国立教育政策研究所)

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>

